

南相馬市公立学校適正化計画（中間報告）

—望ましい適正化基準について—

平成30年5月
南相馬市教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	学校規模の現状について	
(1)	市内小中学校の児童生徒数の推移	2
(2)	市内小中学校の学級数の推移	3
3	これまでの検討経過について	
(1)	南相馬市公立学校適正化検討委員会	5
(2)	学校適正化に関するアンケート調査等	6
4	南相馬市における学校適正化の基本的な考え方	7
5	学級規模の検討について	8
6	学校規模の検討について	11
7	望ましい適正化基準について	14
8	今後の進め方	15

《 参考資料 》

- 資料1 学校適正化に関するアンケート調査
- 資料2 学校適正化に関するアンケート調査(教職員)
- 資料3 市内小中学校児童生徒通学状況調査
- 資料4 市内小学校クラブ活動状況調査
- 資料5 市内中学校部活動状況調査
- 資料6 市内小中学校区域外就学状況調査

1 はじめに

本市では、少子化の影響に加え、東日本大震災及び原発事故に伴い、児童生徒数が減少しており、今後も小中学校の小規模化の進行が見込まれます。

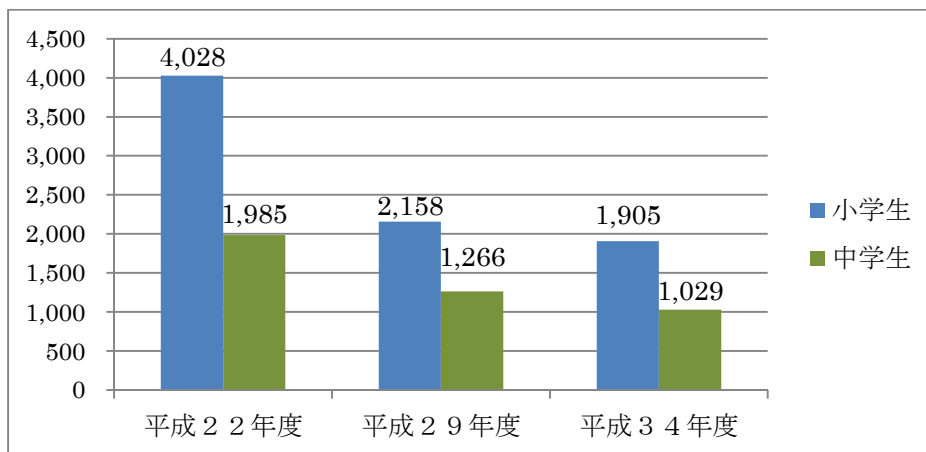
一方、文部科学省では、平成27年1月に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を策定し、各市町村においては、これからの時代に求められる教育内容や指導方法の改善の視点も十分勘案しつつ、現在の学級数や児童生徒数の下で、具体的にどのような教育上の課題があるかについて総合的な観点から分析を行い、保護者や地域住民と共通理解を図りながら、学校規模の適正化を検討する必要があるとしています。

このような状況の中、本市では、平成28年度から小中学校の適正化（適正規模・適正配置）の検討を進めており、学識経験者、PTA、地区の代表等で組織する「南相馬市公立学校適正化検討委員会」を設置し、児童生徒数の推移等の現状を共有し、これまでの検討内容及び整理事項について意見をいただきました。

市教育委員会では、検討委員会での意見を踏まえ「南相馬市公立学校適正化計画（中間報告）」をとりまとめ、市内小中学校の望ましい適正化基準を定めました。

2 学校規模の現状について

(1) 市内小中学校の児童生徒数の推移



※平成 22 年度及び平成 29 年度は市教育要覧引用

※平成 34 年度は居住人口データ（企画課作成 H29. 3. 30）引用

小学校の児童数は、平成 22 年度は 4,028 人でしたが、平成 29 年度は 2,158 人（平成 22 年度比 46%減）となり、さらに、平成 34 年度には 1,905 人（平成 29 年度比 12%減）となる見込みです。

また、中学校の生徒数は、平成 22 年度 1,985 人でしたが、平成 29 年度は 1,266 人（平成 22 年度比 36%減）となり、さらに平成 34 年度には 1,029 人（平成 29 年度比 19%減）となる見込みです。

平成 34 年度以降についても、全国的に進む少子化に加え、東日本大震災と原発事故に伴う避難により、市内児童生徒数の減少が想定されます。

①各小学校の推移

各小学校の児童数は、震災前と現在を比較すると、鹿島小を除く全ての学校で減少しています。

特に、平成 28 年 7 月 12 日に避難区域を解除した小高区内の児童数の著しい減少をはじめ、太田小及び石一小の児童数は約 7 割減少、原二小の児童でも約 5 割減少しています。

また、鹿島小だけの児童数だけを見ると増加はしているものの、平成 29 年度の鹿島小学区は、平成 25 年度に廃校した真野小学区も含まれていることから、現在の鹿島小学区における児童数は減少している。

年度 学校名	H22	H29	増減数 H29-H22	増減率 %
原一小	598	400	▲ 198	▲ 33.1
原二小	331	168	▲ 163	▲ 49.2
原三小	538	330	▲ 208	▲ 38.7
高平小	193	121	▲ 72	▲ 37.3
大壺小	204	123	▲ 81	▲ 39.7
太田小	133	43	▲ 90	▲ 67.7
石一小	187	63	▲ 124	▲ 66.3
石二小	486	292	▲ 194	▲ 39.9
鹿島小	317	368	51	16.1
真野小	75	75	▲ 75	▲ 100.0
八沢小	120	78	▲ 42	▲ 35.0
上真野	141	110	▲ 31	▲ 22.0
小高小	392	47	▲ 345	▲ 88.0
福浦小	105	8	▲ 97	▲ 92.4
金房小	143	4	▲ 139	▲ 97.2
鳩原小	65	3	▲ 62	▲ 95.4
計	4,028	2,158	▲ 1,870	▲ 46.4

②各中学校の推移

各中学校の生徒数は、震災前と現在を比較すると、全ての学校で減少しています。

小高区内の生徒数の著しい減少をはじめ、原三中の生徒数は約5割減少、原一中でも3割を超える生徒数が減少しています。

年度 学校名	H22	H29	増減数 H29-H22	増減率 %
原一中	506	342	▲ 164	▲ 32.4
原二中	318	238	▲ 80	▲ 25.2
原三中	163	82	▲ 81	▲ 49.7
石神中	319	252	▲ 67	▲ 21.0
鹿島中	297	286	▲ 11	▲ 3.7
小高小	382	66	▲ 316	▲ 82.7
計	1,985	1,266	▲ 719	▲ 36.2

(2) 市内小中学校の学級数の推移

【小学校の推移】

全学級 (普通学級)	平成22年度		平成29年度	
	学校名	学級数	学校名	学級数
1～5学級	鳩原小	4	太田小	4
			石一小	5
6～11学級	太田小	6	高平小	6
	真野小	6	大甕小	6
	八沢小	6	八沢小	6
	上真野小	6	上真野小	6
	金房小	6	小高小	6
	福浦小	7	福浦小	
	大甕小	9	金房小	
	石一小	9	鳩原小	
	高平小	10	(小高区4小)	
			原二小	7
12学級以上 国が示す望ましい適正規模	原二小	12	石二小	12
	鹿島小	13	原三小	13
	小高小	15	原一小	15
	石二小	18	鹿島小	15
	原三小	19		
	原一小	23		
合 計	16校	169	15校	101

※真野小は平成25年度廃校。

※平成29年度から小高小・福浦小・金房小・鳩原小は小高区4小による合同運営にて再開し、実質1学年1学級の6学級のクラス編成。

(小高区4小学校が各学校による単独運営となる場合、小高小5学級、福浦小3学級、金房小2学級、鳩原小2学級となり、全ての学校が複式学級の規模となる。)

※平成29年度の太田小及び石一小は加配教員により複式学級が解消。

(太田小は平成26年度、石一小は平成28年度から加配教員により複式学級が解消。)

【中学校の推移】

全学級 (普通学級)	平成22年度		平成29年度	
	学校名	学級数	学校名	学級数
1～8学級	原三中	7	原三中	3
			小高中	3
9学級以上 <div>国が示す望ましい適正規模</div>	鹿島中	11	原二中	9
	原二中	12	石神中	9
	石神中	12	鹿島中	10
	小高中	13	原一中	11
	原一中	16		
合 計	6校	71	6校	45

平成22年度の全学級数は、小学校で169学級、中学校で71学級でした。平成29年度には小学校で101学級（40％減）、中学校で45学級（37％減）です。

また、平成22年度は、小学校16校中10校が、中学校6校中1校が文部科学省で示す適正規模（小学校12学級以上、中学校9学級以上）に満たない学校となっていました。平成29年度には小学校15校中11校、中学校は6校中2校が、国が示す望ましい適正規模に満たない学校となりました。

3 これまでの検討経過について

(1) 南相馬市公立学校適正化検討委員会

児童生徒の減少に伴い、市内小中学校にもたらす影響や実態を把握し、教育機会の均等と教育水準の維持向上を図り、教育効果を向上させることを考慮した小中学校の適正化を検討することを目的に、学識経験者、PTA、地区の代表等で組織する検討委員会を設置した。

■平成28年度

11月28日	第1回委員会	・委員委嘱、委員長及び副委員長の選出 ・市内小中学校の現状把握とスケジュールの共有
1月13日	第2回委員会	・市内小中学校の現状把握 ・適正化に関する意見交換
1月28日	第3回委員会	・適正化に関する基本的な考え方(素案)の意見交換 ・適正化に関するアンケート実施についての意見交換

■平成29年度

5月23日	第4回委員会	・スケジュール変更の確認 ・適正化に関する基本的な考え方(案)の確認 ・適正化に関するアンケート調査の設問の検討
8月3日	第5回委員会	・講話 講義名 学校規模適正化めぐる動向 講 師 南相馬市公立学校適正化検討委員会 阿内春生氏 (福島大学) ・適正化に関するアンケート調査結果についての意見交換
10月11日	第6回委員会	・先進地視察(登米市豊里小中学校) ・小中一貫校の現状と課題の共有
3月1日	第7回委員会	・適正化に関する調査等の結果分析 ・望ましい適正化基準の意見交換
3月20日	第8回委員会	・南相馬市公立学校適正化計画中間報告(素案)の意見交換 ・今後のスケジュールの共有

(2) 学校適正化に関するアンケート調査等

本市の学校適正化を多角的な視点による検討が必要なことから、市内小中学校及び児童生徒に関わる調査について、次のとおり実施した。

① 学校適正化に関するアンケート調査

- ・実施時期 平成29年5月30日から平成29年6月20日
- ・対象者
 - ・小学生保護者 364人（小学5年生の保護者）
 - ・中学生保護者 417人（中学2年生の保護者）
 - ・未就学児保護者 1,640人（未就学児を持つ保護者）
 - ・一般市民 1,500人（無作為抽出）

② 学校適正化に関するアンケート調査（教職員）

- ・実施時期 平成30年1月27日から平成30年2月7日
- ・対象者
 - ・市内小学校全教職員 221人
 - ・市内中学校全教職員 116人

③ 市内小中学校児童生徒通学状況調査

- ・実施時期 平成29年8月25日から平成29年9月15日
- ・対象者
 - ・市内小学生全員 2,080人
 - （回収数） ・市内中学生全員 1,220人

④ 市内小学校クラブ活動状況調査

⑤ 市内中学校部活動状況調査

⑥ 市内小中学校区域外就学状況調査

4 南相馬市における学校適正化の基本的な考え方

本市では、市内小中学校の適正化計画の策定にあたり、南相馬市公立学校適正化検討委員会の意見を踏まえて、平成29年5月に「南相馬市における学校適正化の基本的な考え方」について、次のとおり決めました。

今後、本市の小中学校の適正規模や適正配置の検討では、以下の考え方を基本とします。

(1) 児童生徒の教育環境を最優先に考えた適正規模及び配置

学校教育の目的や目標をよりよく実現し、本市の児童生徒が、学校の果たす役割の中で充実した学校教育を享受できるよう、将来にわたり魅力的で効果的な学習環境を提供する観点を最優先に進めます。

(2) 保護者や地域住民の意見への配慮

学校が地域に果たしてきた歴史的・文化的な役割や、公共施設としての住民の利用等も考慮し、保護者や地域住民の意見を踏まえ進めます。

(3) 小高区復興への促進

小高区住民が帰還の途上にある中で、さらなる帰還促進に繋がる学校教育環境の整備を考慮するとともに、小高区の状況を踏まえ復興に寄与する観点で進めます。

5 学級規模（1学級あたりの児童生徒数）の検討について

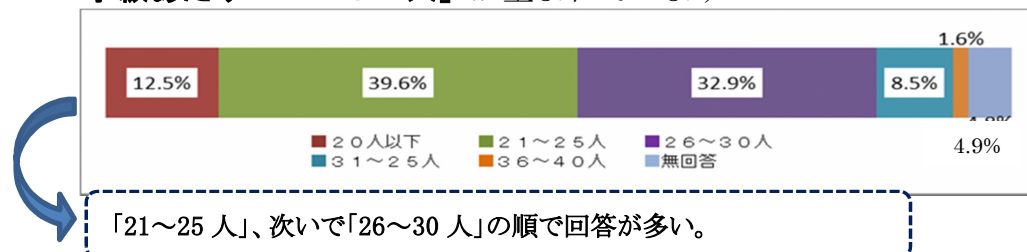
1学級の児童生徒数は、これまで実施した保護者及び一般市民や教職員を対象としたアンケート調査結果を踏まえ、児童生徒の教育環境の視点で検討しました。

（1）小学校の学級規模

■ 1学級あたりの望ましい児童数について

① 保護者・一般市民のアンケート調査結果

「1学級あたり21～30人」が望まれています

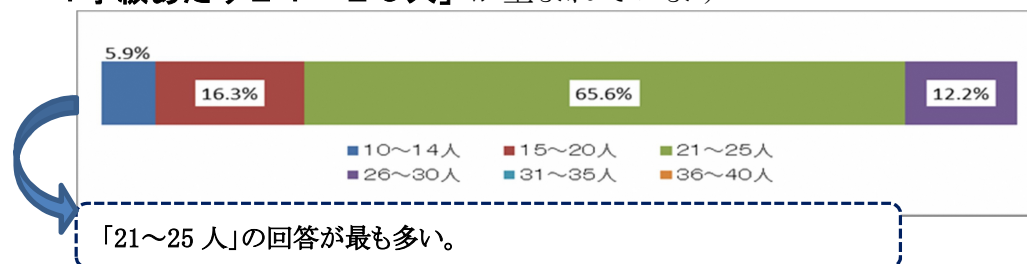


◇ 1学級あたりの児童数を決めるのに重要なことの調査結果

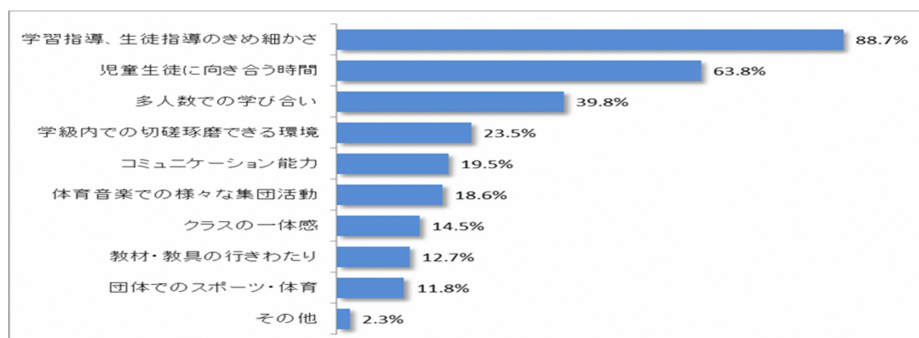


② 教職員のアンケート調査結果

「1学級あたり21～25人」が望まれています



◇ 1学級あたりの児童数を決めるのに重要なことの調査結果

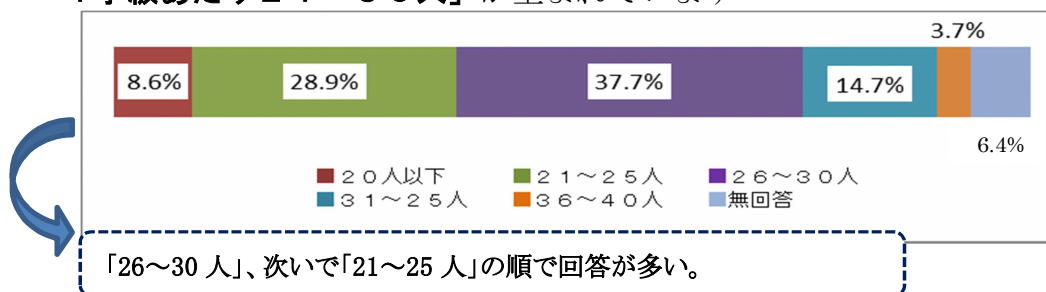


(2) 中学校の学級規模

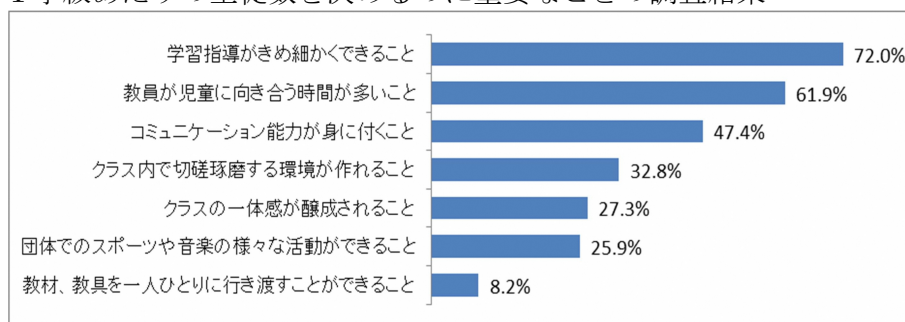
■ 1学級あたりの望ましい生徒数について

① 保護者・一般市民のアンケート調査結果

「1学級あたり21～30人」が望まれています

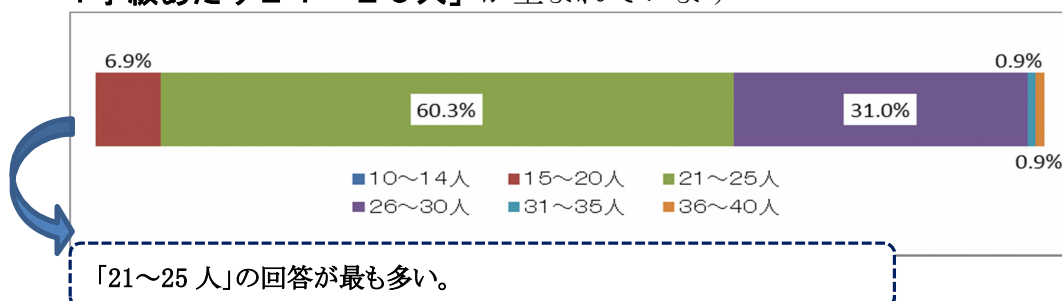


◇ 1学級あたりの生徒数を決めるのに重要なことの調査結果

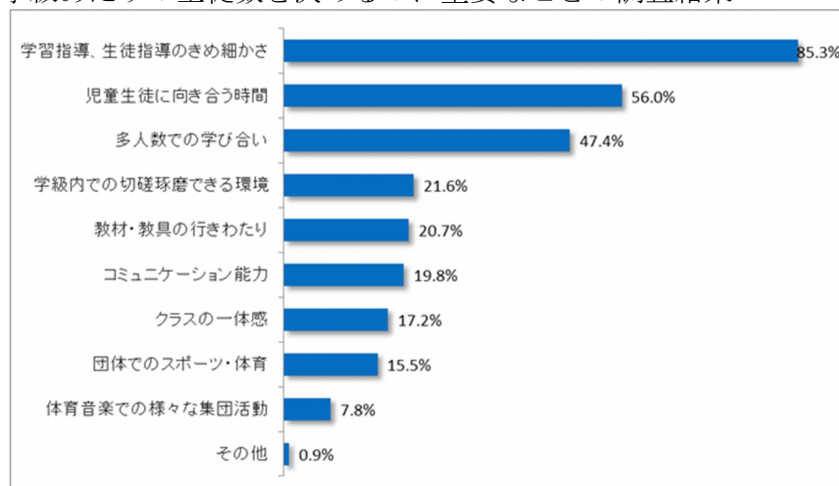


② 教職員のアンケート調査結果

「1学級あたり21～25人」が望まれています



◇ 1学級あたりの生徒数を決めるのに重要なことの調査結果



(3) アンケート調査結果等を踏まえた児童生徒の教育環境の視点による検討

<教育環境視点 1－1>

「教員が児童生徒に目が行き届き、きめ細かい教育ができる環境」

- 教育スタイルが、従来の詰め込み式の学習形態から、自発的に「考えさせる」「応用させる」などに変わってきており、1人の教員が児童生徒の学習状況に加え、家庭状況を把握できる人数に限りがあります。
- 通常学級に在籍する「特別な支援を要する児童生徒」が増加しており、1人の担任で児童生徒に対し、個に応じた学習指導及び生徒指導が行き届く人数には限りがあります。

<教育環境視点 1－1> 「望ましい1学級あたりの児童生徒数」

小学校 21～25人

中学校 21～30人

<教育環境視点 1－2>

「主体的に学び合う活動と集団学習ができる環境」

- 各教科のグループ演習や、特に理科や家庭科などのグループ学習では、グループ内での議論と自主的な取り組みを促すために、グループ人数は4～5名が効果的です。また、多種多様な考えに触れさせながら学習意欲を向上させるために、そのグループ編成は5～6班が望ましいと考えます。
- 体育授業では、少人数学級でも複数学年での実施や工夫した活動にするなど配慮はしているものの、団体種目を実施するにあたり、男女に体力差があることや一定のルールのもとで実施すべきと考えます。

<教育環境視点 1－2> 「望ましい1学級あたりの児童生徒数」

小学校 21～25人

中学校 26～30人

<教育環境視点 1－3>

「学級内でコミュニケーション能力の育成及び切磋琢磨できる環境」

- 少ない学級の人数では、人間関係が固定化されるため、コミュニケーション能力を高めるための適度な環境や切磋琢磨する環境を整える必要があること、また、成績が序列化しやすく、新たな意見を出して挑戦しようとする意欲が低下しやすいと考えます。

<教育環境視点 1－3> 「望ましい1学級あたりの児童生徒数」

小学校 21～25人

中学校 26～30人

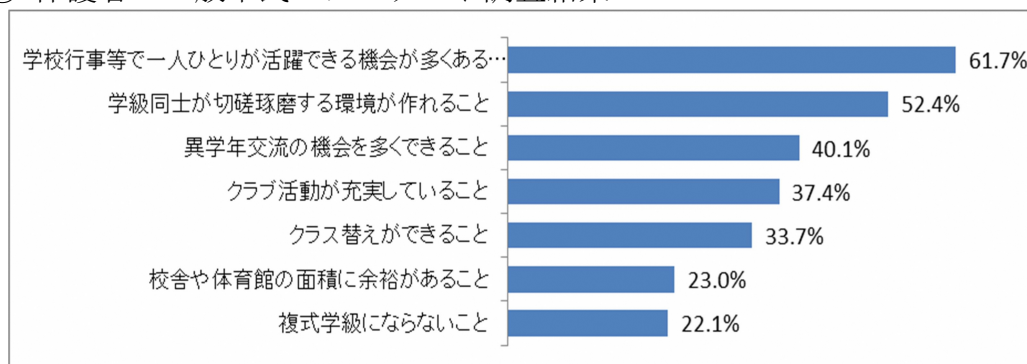
6 学校規模（1学年あたりの学級数）の検討について

1学年の学級数は、これまで実施した保護者及び一般市民や教職員を対象としたアンケート調査結果を踏まえ、児童生徒の教育環境の視点で検討しました。

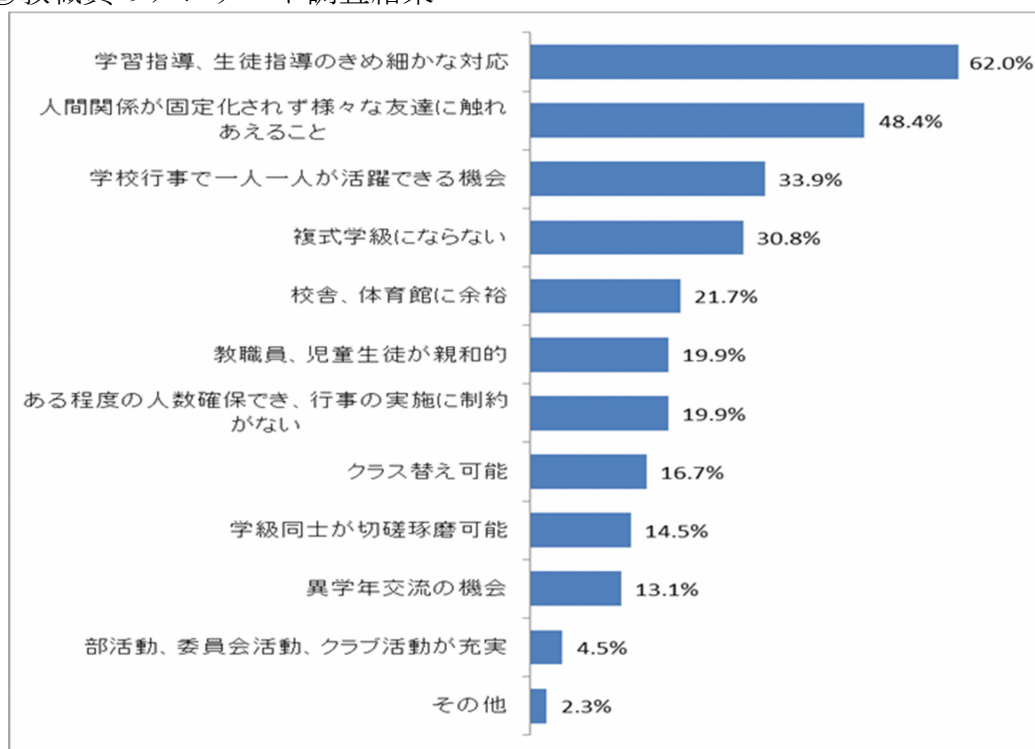
（1）小学校の学校規模

■学校規模を決めるのに重要なこと

① 保護者・一般市民のアンケート調査結果



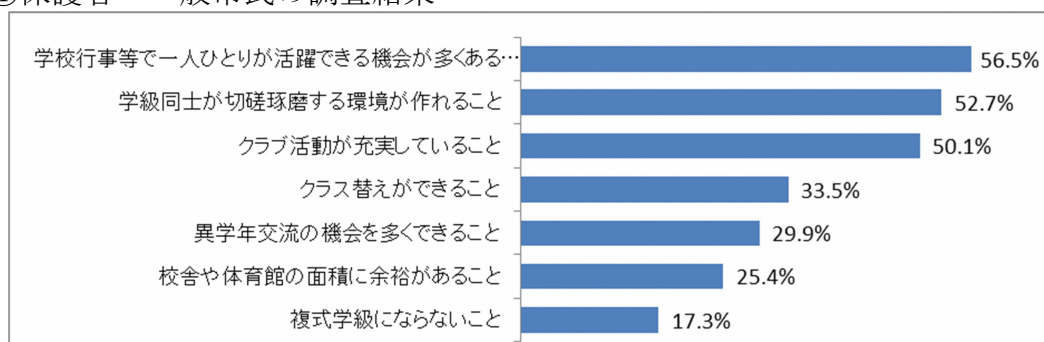
② 教職員のアンケート調査結果



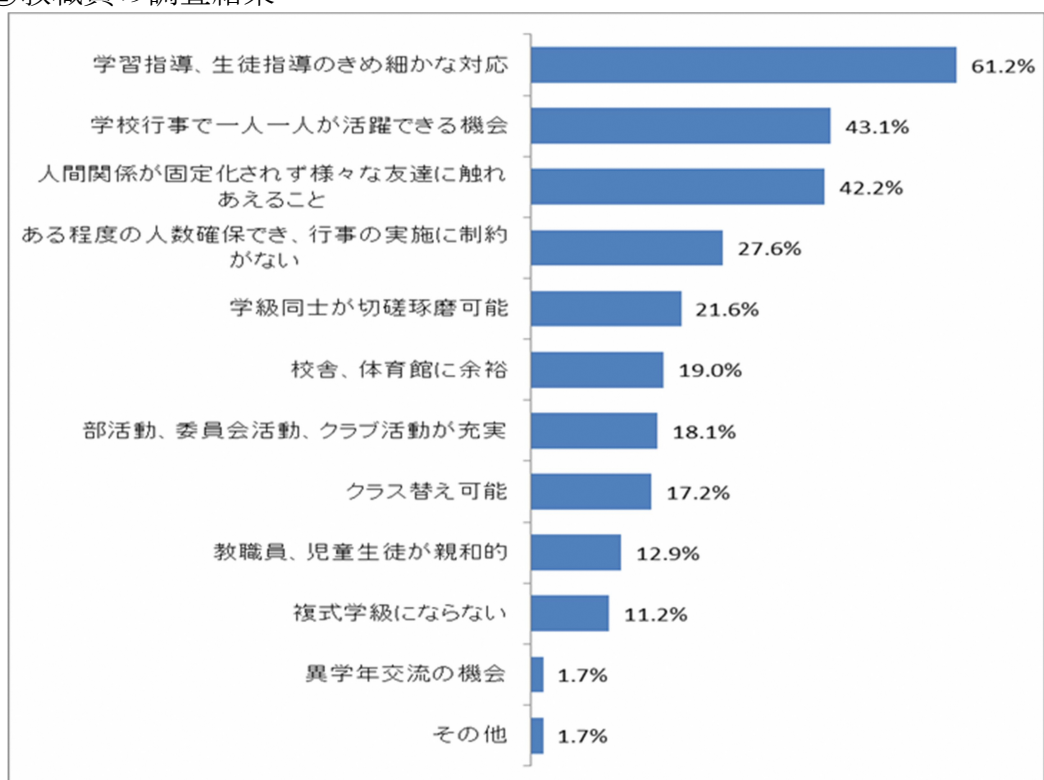
(2) 中学校の学校規模

■学校規模を決めるのに重要なこと

①保護者・一般市民の調査結果



②教職員の調査結果



(3) アンケート調査結果等を踏まえた児童生徒の教育環境の視点による検討

<教育環境視点 2-1>

「学校行事等で児童生徒が一人ひとり活躍できる環境」

- 学習発表会などの行事で、児童生徒一人ひとりの個性を生かすためには、あまり規模が大き過ぎず、適度な学級数が望まれる。

<教育環境視点 2-1> 「望ましい1学年あたりの学級数」

小学校 1～3学級

中学校 2～4学級

<教育環境視点 2-2>

「多様なものの見方や考え方をもつ児童生徒が出会える環境」

- 多様な意見に触れさせることができ、クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにできるため、1学年あたり複数学級の編成が望ましい。
- 児童生徒の人間関係等に配慮した学級編成が必要であるため、1学年あたり複数学級の編成が望ましい。

<教育環境視点 2-2> 「望ましい1学年あたりの学級数」

小学校 2学級以上

中学校 2学級以上

<教育環境視点 2-3>

「クラブ活動や部活動、学校行事等において多様な選択ができる環境」

- 特別活動は「集団活動」が基本となることから、児童生徒の自主的な活動を促すような学校規模が望まれる。
- 市内小中学校では、学校の規模によりクラブ活動や部活動の種類に制限がある状況であり、一定の学校規模が望まれる。
- 運動会、文化祭等で多様な種目や演目の設定が可能となり、活気あふれる学校行事にする規模が望まれる。

<教育環境視点 2-3> 「望ましい1学年あたりの学級数」

小学校 2～3学級

中学校 2～4学級

7 望ましい適正化基準について

これまでの検討を踏まえ、本市で考える望ましい適正化基準（1学級あたりの児童生徒数及び1学年あたりの学級数）について、次のとおり定めます。

（1）望ましい1学級あたりの児童生徒数

●小学校 21～25人

<div>人数</div> <div>視点</div>		学 級 人 数 (人)																			
		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	
教育環境視点 1-1								←	←	←	←	→									
教育環境視点 1-2								←	←	←	←	→									
教育環境視点 1-3								←	←	←	←	→									
適正化基準								↔													

●中学校 26～30人

視 点	人 数	学 級 人 数 (人)																		
		15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33
教育環境視点 1－1								←	←	←	←	←	←	←	←	←	←			
教育環境視点 1－2													←	←	←	←	←			
教育環境視点 1－3													←	←	←	←	←			
適正化基準													←	←	←	←	←			

（2）望ましい1学年あたりの学級数

●小学校 2～3学級

視点	学級数	学 級 数 (学級)					
		1	2	3	4	5	6
教育環境視点 2-1		←	←	←	←		
教育環境視点 2-2			←	←	←	←	←
教育環境視点 2-3			←	←	←		
適正化基準			←	←	←		

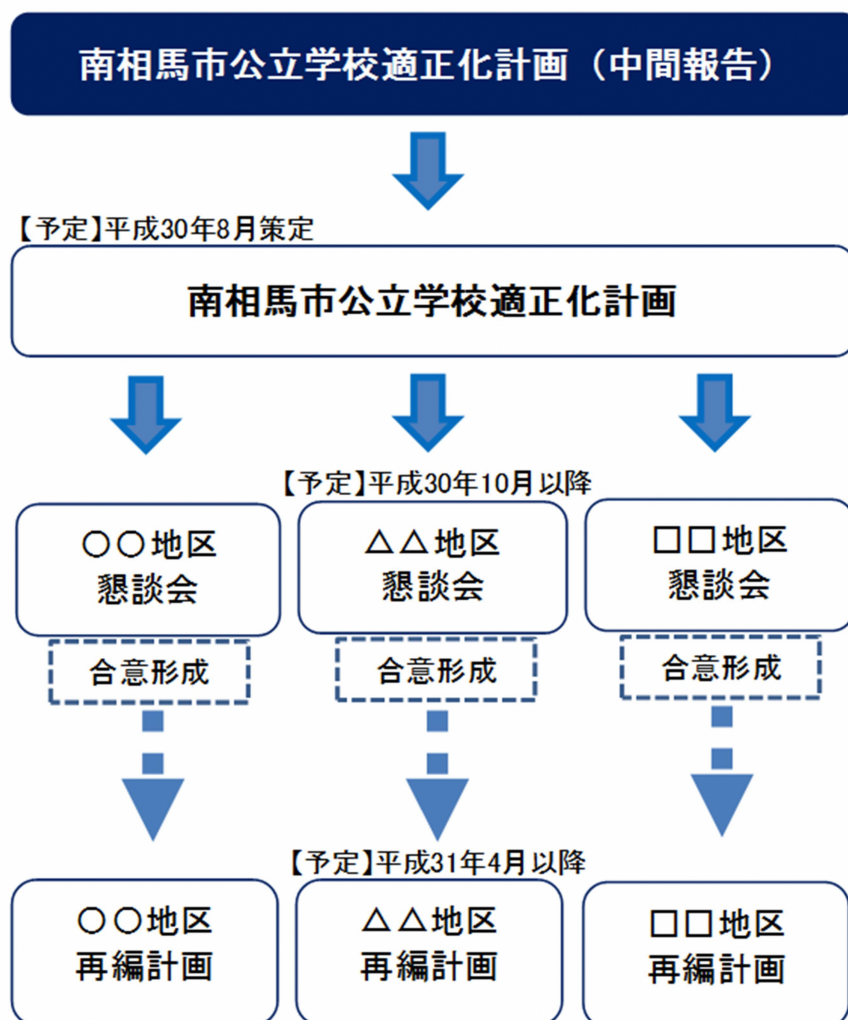
●中学校 2～4学級

視点	学級数	学 級 数 (学級)					
		1	2	3	4	5	6
教育環境視点 2-1			←	←	←	←	
教育環境視点 2-2			←	←	←	←	←
教育環境視点 2-3			←	←	←	←	
適正化基準			←	←	←	←	

8 今後の進め方について

今後は、「望ましい適正化基準」に基づき、検討委員会の意見を踏まえ、適正化の対象となる学校の分析、適正化をすることによる課題やその解決策などについて整理し、平成30年8月に南相馬市公立学校適正化計画を策定します。

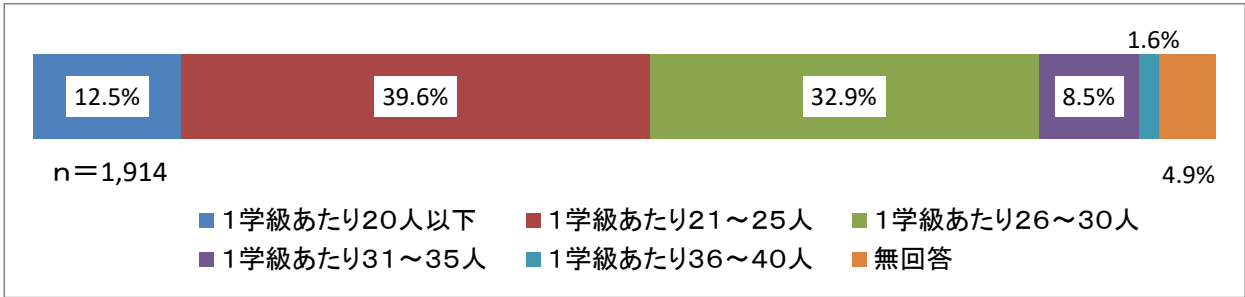
また、「南相馬市公立学校適正化に関する基本的な考え方」に定めた小高区内の学校のあり方や、小学校と中学校における系統的・連続性に配慮した小中一貫校などの新たな学校教育のあり方を全市的に検討する一方で、学校適正化は地域の合意が重要であることから、地域との合意形成のあり方についても、今後検討します。



小学校に関する調査結果

1 小学校の1学級あたりの児童数は、何人が望ましいと思いますか（1つ選択）

1－（1） 全体集計

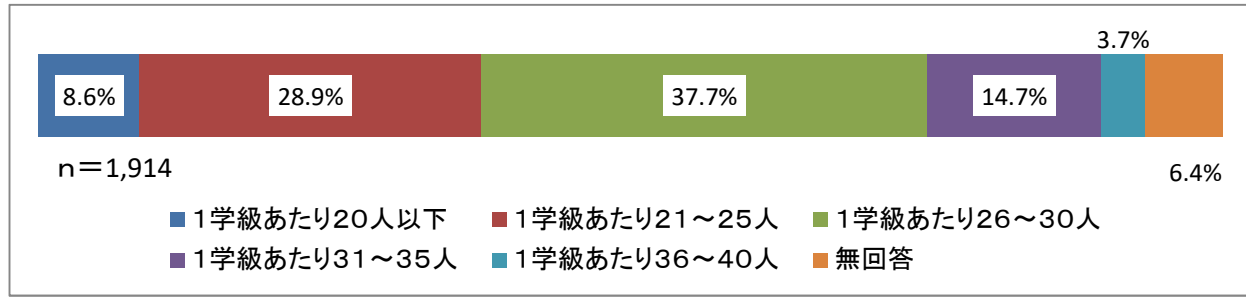


小学校の1学級あたりの望ましい児童数については、全体集計では「1学級あたり21～25人」が最も多い回答になっている。次いで「1学級あたり26～30人」の回答が多い。回答の多い「1学級あたり21～25人」「1学級あたり26人～30人」の割合は72.5ポイントを占めている。

中学校に関する調査結果

6 中学校の1学級あたりの生徒数は、何人が望ましいと思いますか（1つ選択）

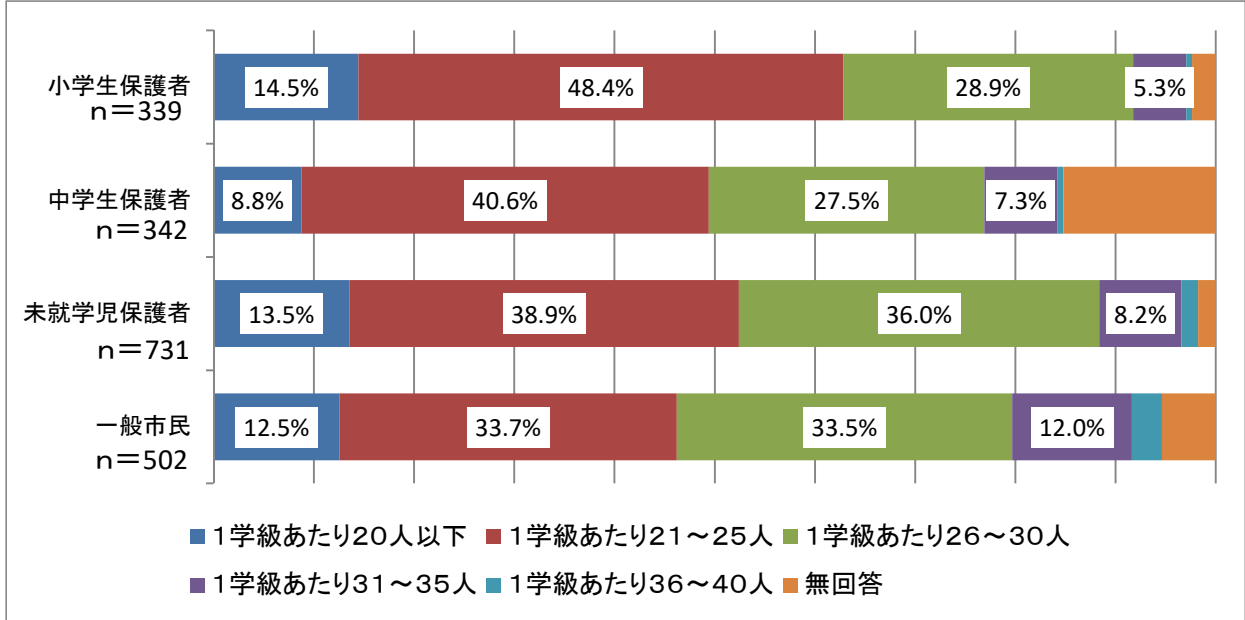
6－（1） 全体集計



中学校の1学級あたりの望ましい児童数については、全体集計では「1学級あたり26～30人」が最も多い回答になっている。次いで「1学級あたり21～25人」の回答が多い。回答の多い「1学級あたり21～25人」「1学級あたり26人～30人」の割合は66.6ポイントを占めている。

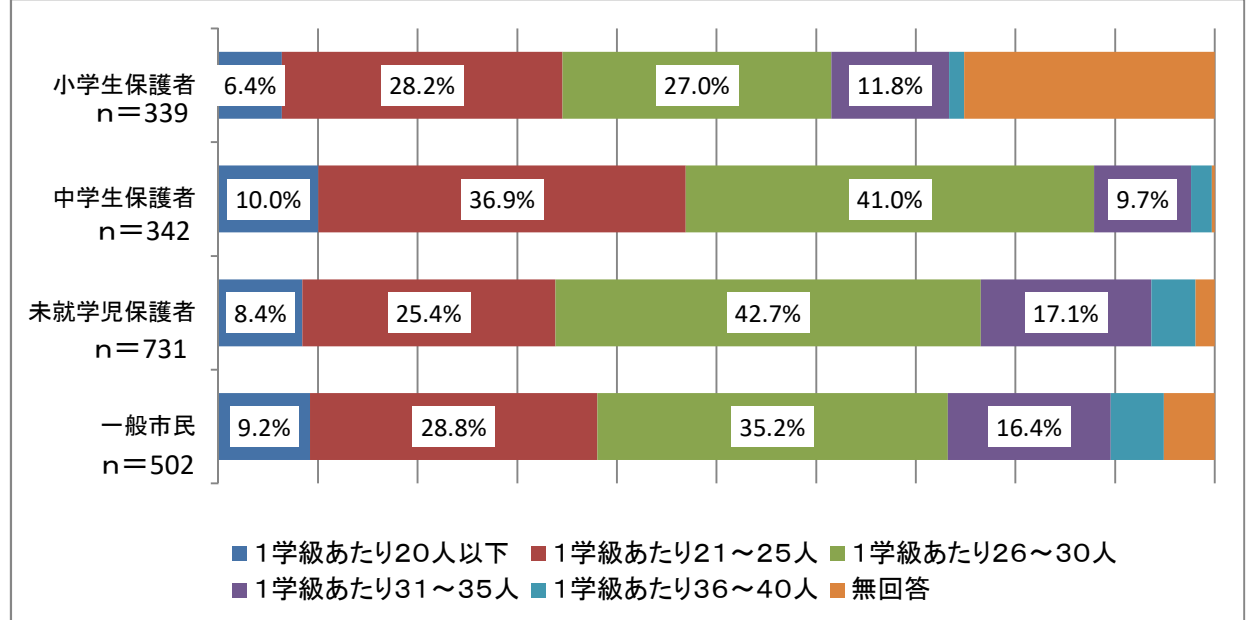
- ①小学校は「21～25人」、「26～30人」、中学校は「26～30人」、「21～25人」の順で回答が多い。
- ②また、小学校では少人数である「20人以下」が12.5ポイント、中学校では大人数である「31～35人」14.7ポイントと比較的多く回答されている。

1－（2） 対象者毎集計



小学校の1学級あたりの望ましい児童数については、全ての調査対象で「1学級あたり21～25人」が最も多い回答になっている。また未就学児保護者及び一般市民は、「1学級あたり26～30人」の回答も多い。回答の多い「1学級あたり21～25人」「1学級あたり26人～30人」の割合は、小学生保護者77.3ポイント、中学生保護者68.1ポイント、未就学児保護者74.9ポイント、一般市民67.2ポイントをそれぞれ占めている。

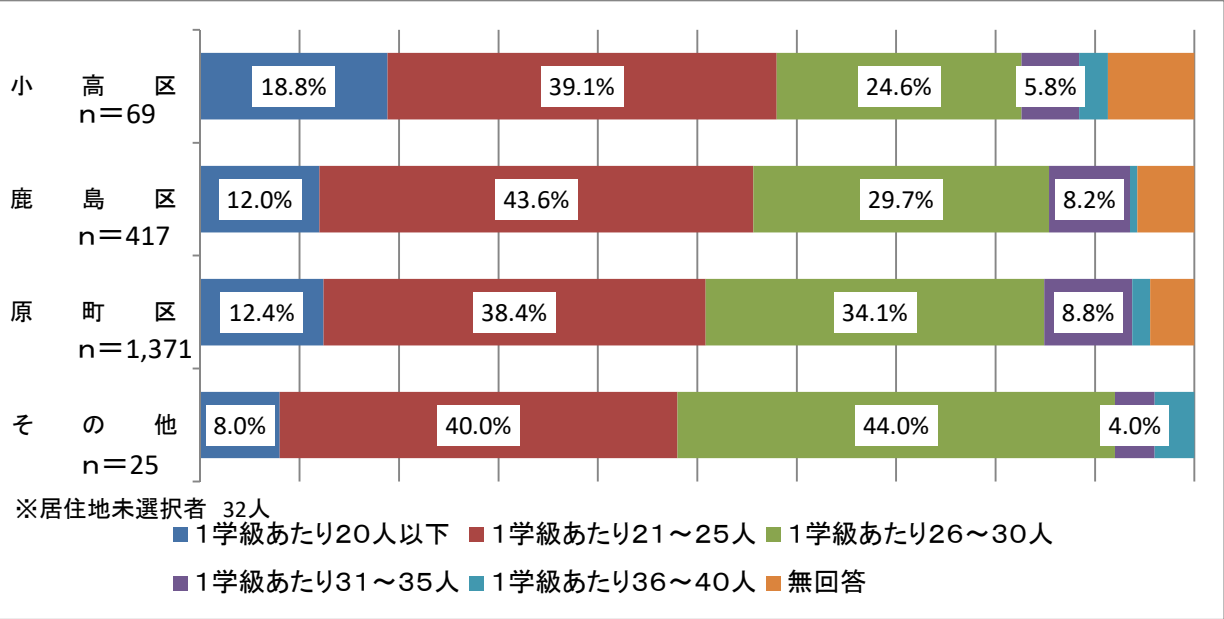
6－（2） 対象者毎集計



中学校の1学級あたりの望ましい児童数については、小学生保護者で「1学級あたり21～25人」が最も多い回答になっている一方で、中学生保護者及び未就学児保護者、一般市民は、「1学級あたり26～30人」の回答も多い。回答の多い「1学級あたり21～25人」「1学級あたり26人～30人」の割合は、小学生保護者55.2ポイント、中学生保護者77.9ポイント、未就学児保護者68.1ポイント、一般市民64.0ポイントをそれぞれ占めている。

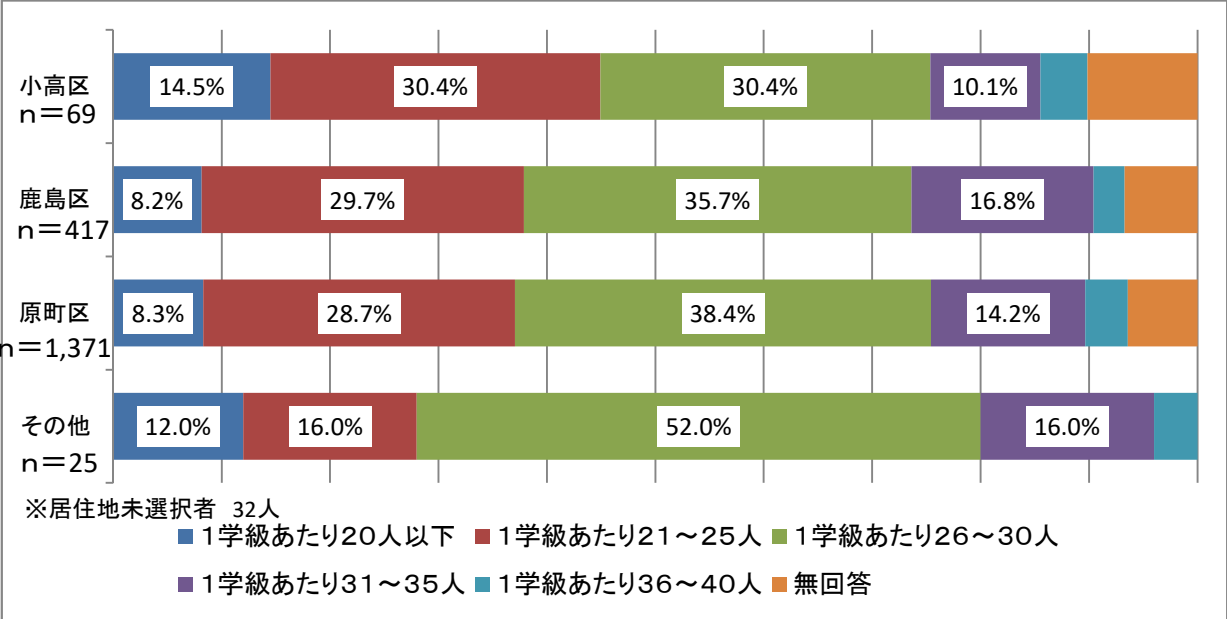
- ①小学校は、全ての調査対象で「21～25人」、「26～30人」、中学校は小学生保護者以外は「26～30人」「21～25人」の順であり、小学生保護者は小学校と同じ傾向であった。
- ②中学校で、「31～35人」と回答した未就学児保護者、一般市民は顕著に多かった。

1－（3） 居住地毎集計（小高区・鹿島区・原町区・その他）



小学校の1学級あたりの望ましい児童数については、全ての居住地で「1学級あたり21～25人」が最も多い回答になっている。小高区では「1学級あたり20人以下」、原町区では「1学級あたり26～30人」の回答も多い。
回答の多い「1学級あたり21～25人」「1学級あたり26人～30人」の割合は、鹿島区73.3ポイント、原町区72.5ポイントと7割を超えた一方、小高区では63.7ポイントと7割未満となっている。

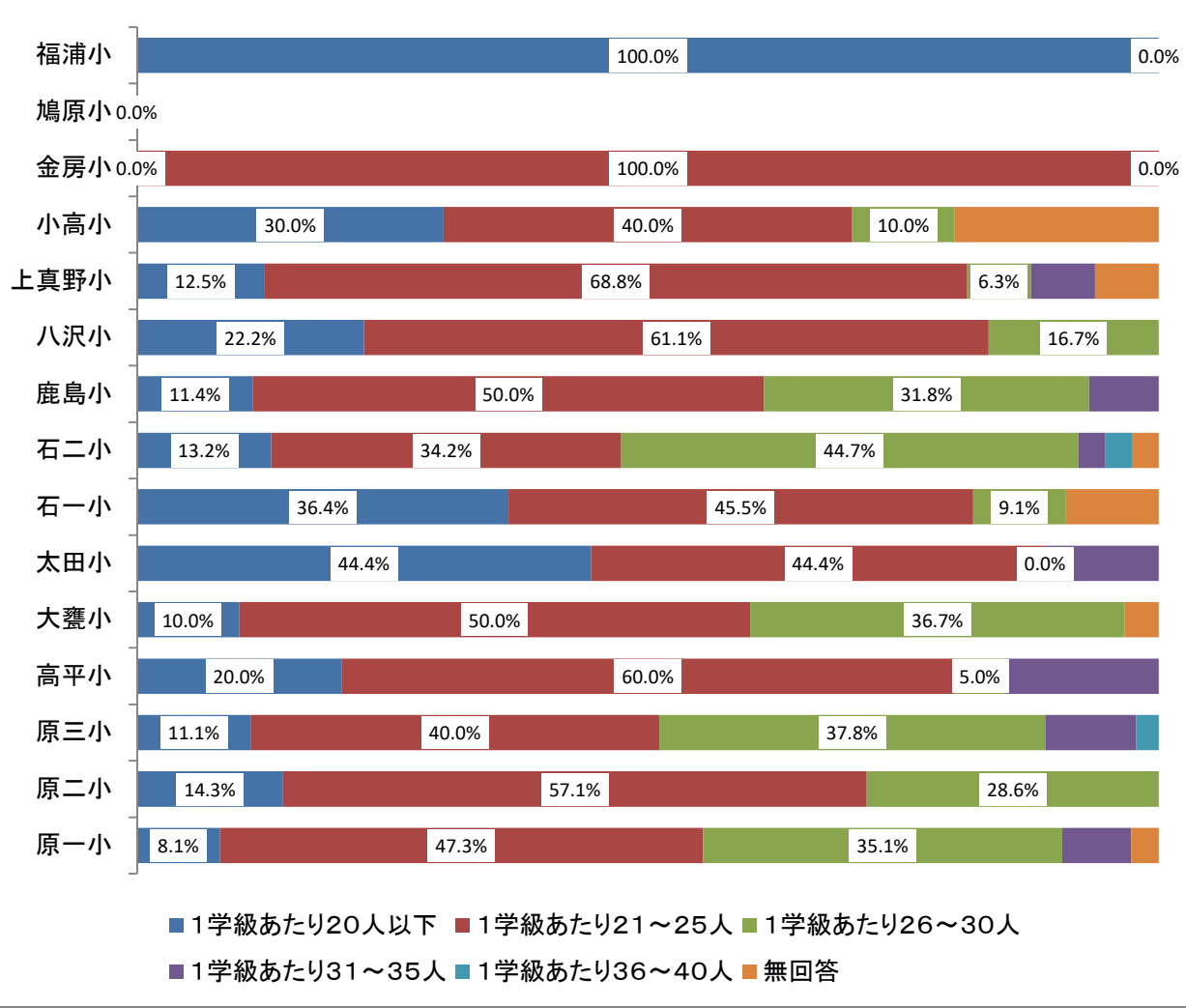
6－（3） 居住地毎集計（小高区・鹿島区・原町区・その他）



中学校の1学級あたりの望ましい児童数については、全ての居住地で「1学級あたり26～30人」が最も多い回答になっているが、小高区では「1学級あたり21～25人」の回答も同率で最も多い回答となっている。
回答の多い「1学級あたり21～25人」「1学級あたり26人～30人」の割合は、小高区60.8ポイント、鹿島区65.4ポイント、原町区67.1ポイントとなっている。

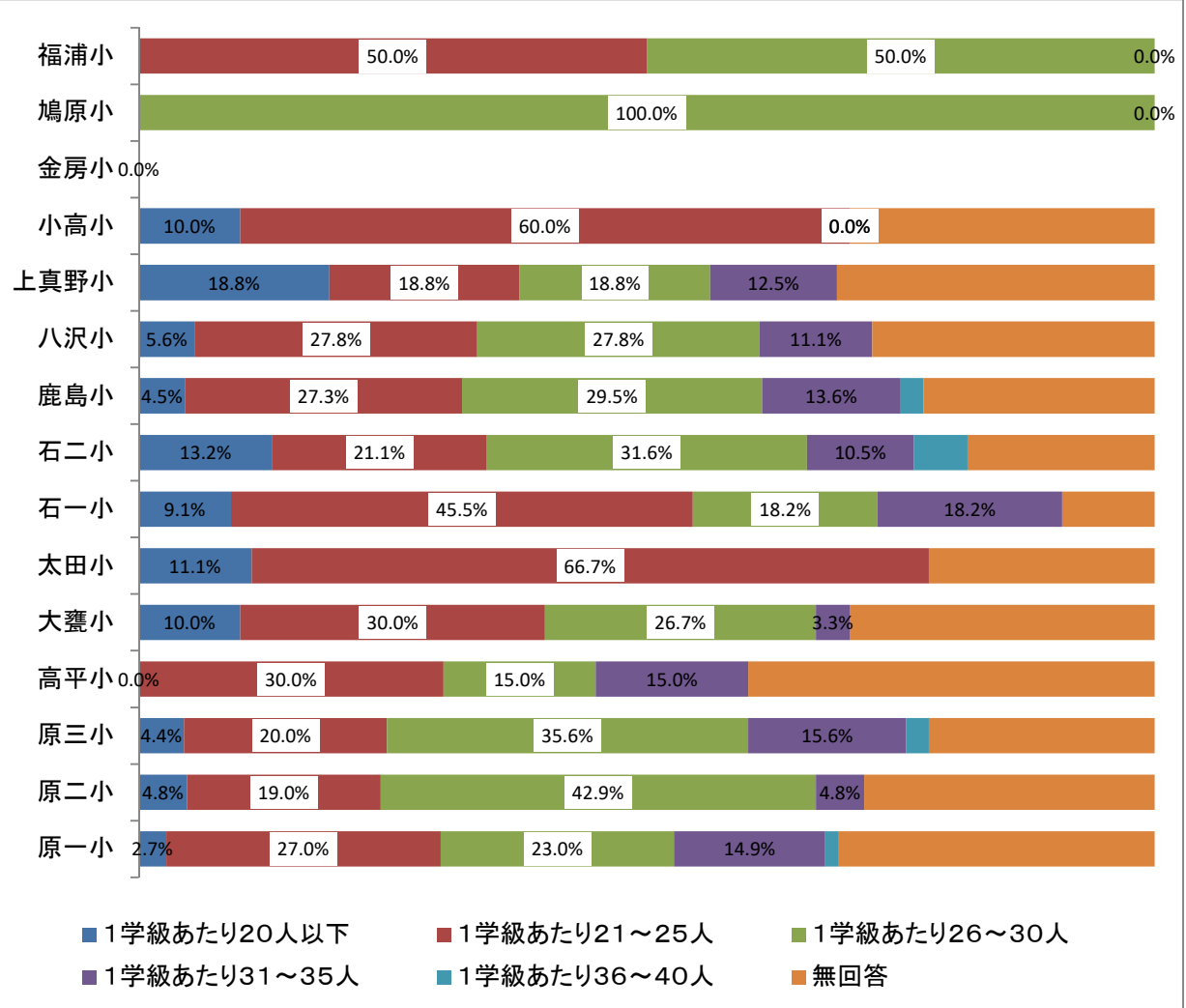
- ①小学校は、全ての区で「21～25人」「26～30人」、中学校は、「26～30人」「21～25人」(小高区は同ポイント)の順であった。
- ②小高区の居住者は、小中学校とも「20人以下」を回答した割合が、他の地区より比較的多かった。

1－（４） 小学校保護者学校毎集計



小学校の1学級あたりの望ましい児童数について、小学生保護者の学校別での回答は、全体的に「1学級あたり21～25人」の回答が多くなっているが、児童数が少ない学校（100人以下）である、「石一小」「太田小」で「1学級あたり20人以下」の回答も多い。また、児童数多い学校（200人以上）である、「鹿島小」「石二小」「原三小」「原一小」で「1学級あたり26～30人」の回答が多い一方で、児童数が比較的少ない学校（200人以下）である「大甕小」も「1学級あたり26～30人」の回答が多い。

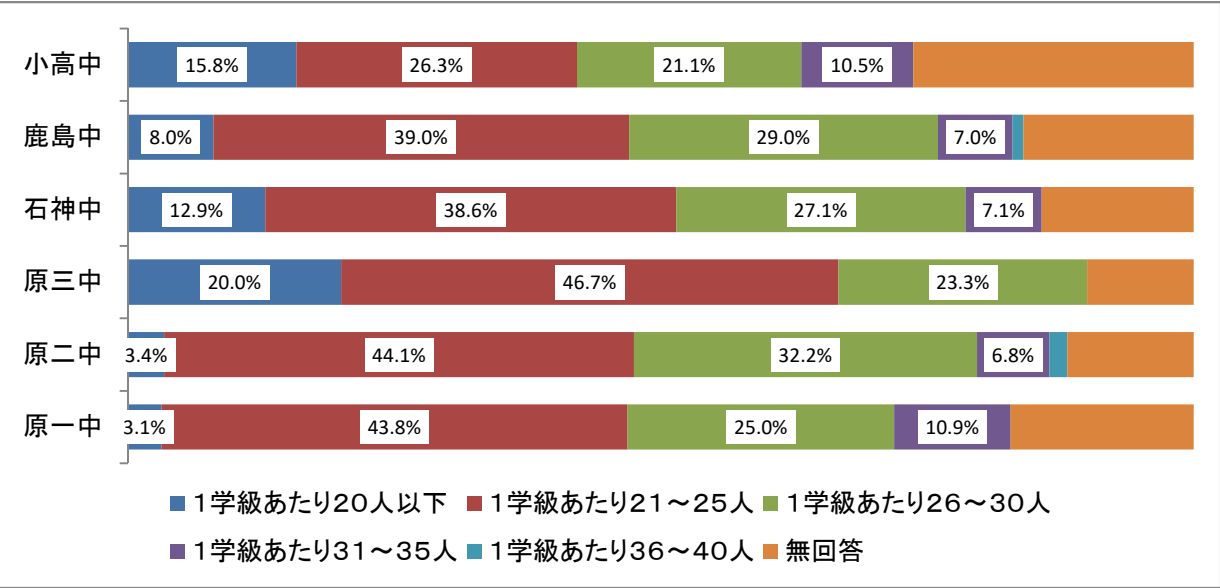
6－（４） 小学校保護者学校毎集計



中学校の1学級あたりの望ましい生徒数について、小学生保護者の学校別での回答は、全体的に「1学級あたり21～25人」と「1学級あたり26～30人」の回答が多くなっているが、児童数が少ない学校（100人以下）である、「石一小」「太田小」で「1学級あたり21～25人以下」を回答した割合が比較的多い。また、児童数多い学校（200人以上）である、「鹿島小」「石二小」「原三小」「原一小」で「1学級あたり31～35人」の回答が多い。

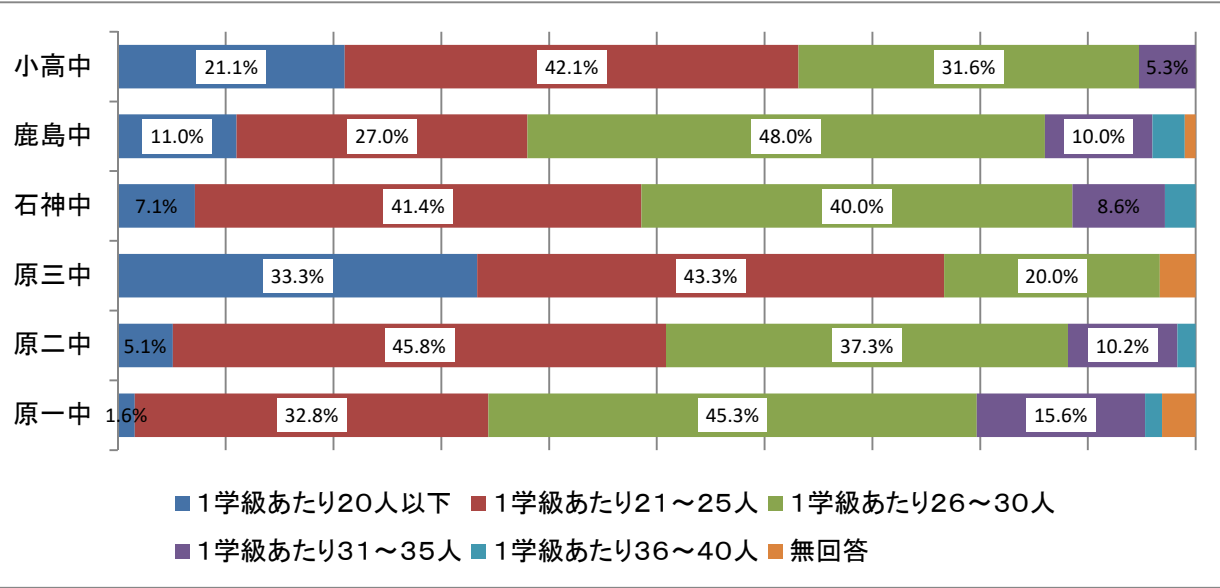
- ①小学校は、学校規模が大きい学校の保護者ほど「26～30人」、小さいほど「20人以下」の回答が多くなっている。
- ②中学校は、学校規模が大きい学校の保護者ほど「26～30人」、小さいほど「21～25人」の回答が多くなっている。
- ③中学校では、規模の小さい「上真野小」「八沢小」「石一小」「高平小」で「31～35人」の回答が比較的が多くなっている。

1－（4） 中学校保護者学校毎集計



小学校の1学級あたりの望ましい児童数については、中学生保護者の学校別で、全ての学校で「1学級あたり21～25人」が最も多い回答になっている。次いで「1学級あたり26～30人」の回答も多い。また、生徒数の少ない学校（100人以下）である「小高中」「原三中」では、「1学級あたり20人以下」の回答が比較的多くなっている。

6－（5） 中学校保護者学校毎集計

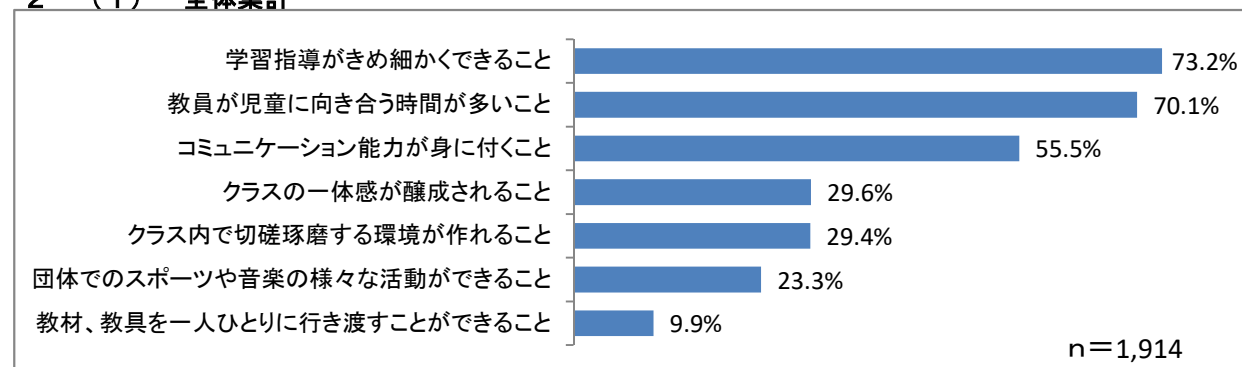


中学校の1学級あたりの望ましい生徒数については、全体的に「1学級あたり21～25人」と「1学級あたり26～30人」の回答が多くなっているが、生徒数の多い学校（200人以上）である「鹿島中」「石神中」「原一中」で「1学級あたり26～30人」の回答が4割を超えている。また、生徒数の少ない学校（100人以下）である「小高中」「原三中」では、「1学級あたり20人以下」の回答が比較的多くなっている。

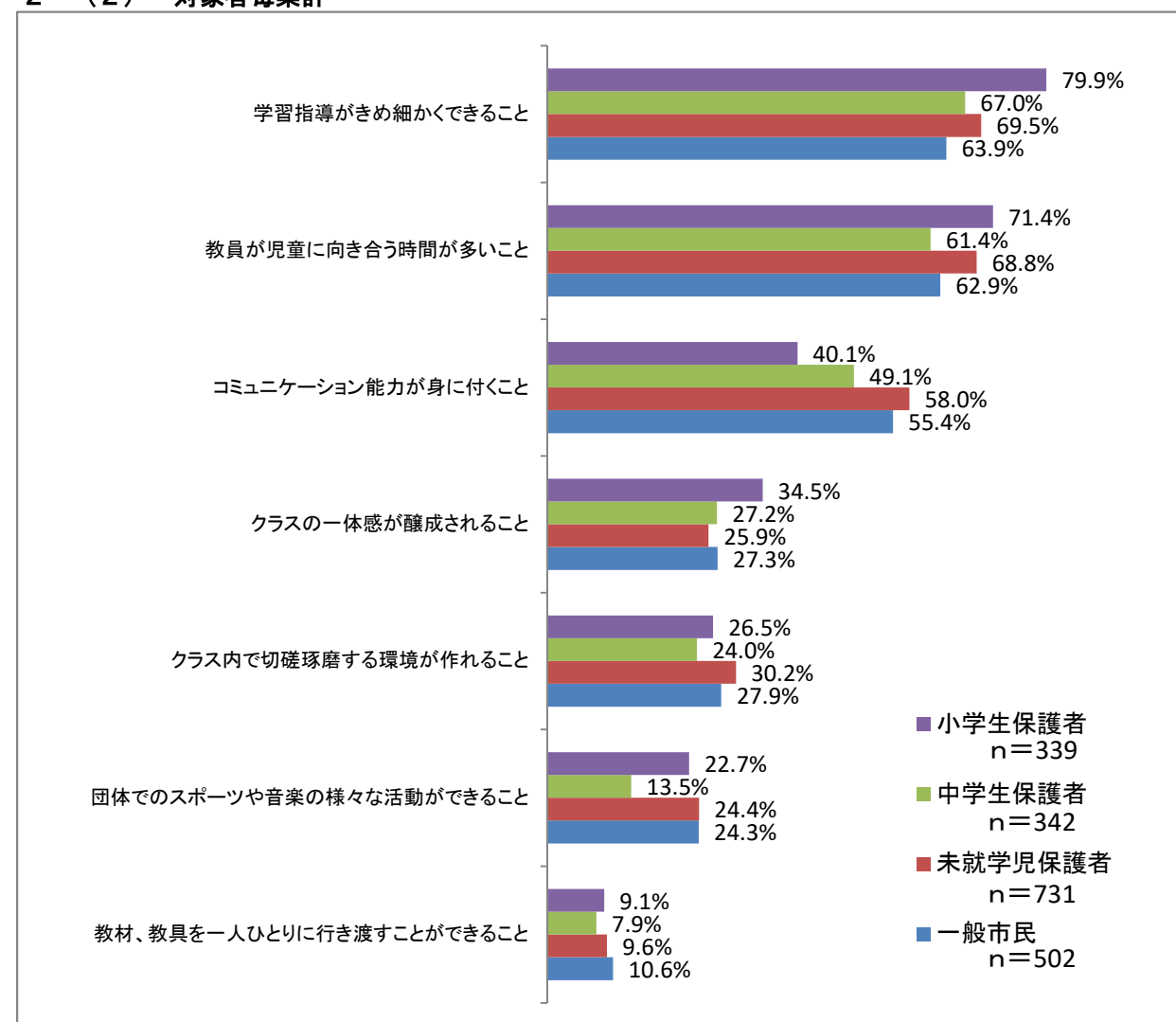
- ①小学校は、全ての学校の保護者が「21～25人」「26～30人」の順で回答が多くなっている。
- ②中学校は、学校規模が大きい学校の保護者ほど「26～30人」、小さいほど「21～25人」の回答が多くなっている。
- ③中学校では、「20人以下」と回答した規模の小さい「小高中」「原三中」で比較的多くなっている。

2 小学校の学級人数を決めるにあたり、重要なことは何ですか（3つまで選択）

2－（1） 全体集計



2－（2） 対象者毎集計

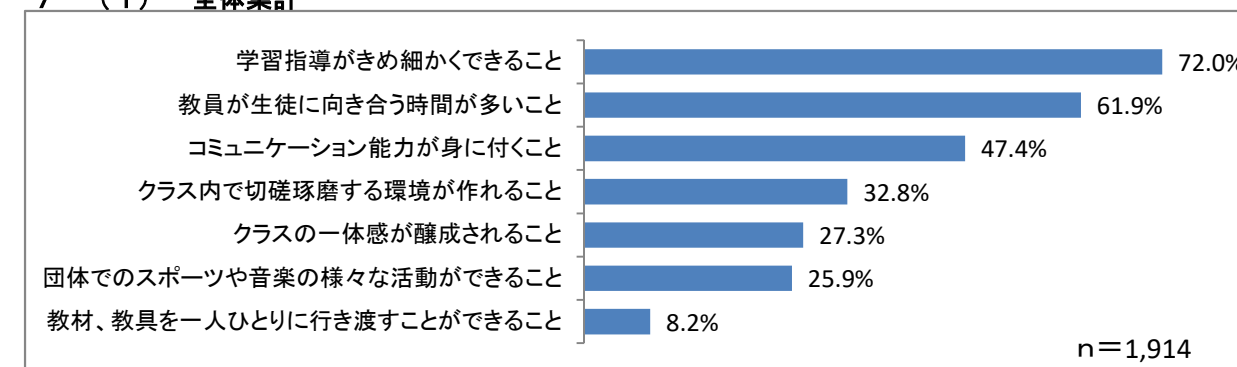


小学校の学級人数を決めるにあたり重要なことについては、全ての対象で「学習指導がきめ細かくできること」「教員が児童に向き合う時間が多いこと」「コミュニケーション能力が身に付くこと」の順で回答が多くなっている。

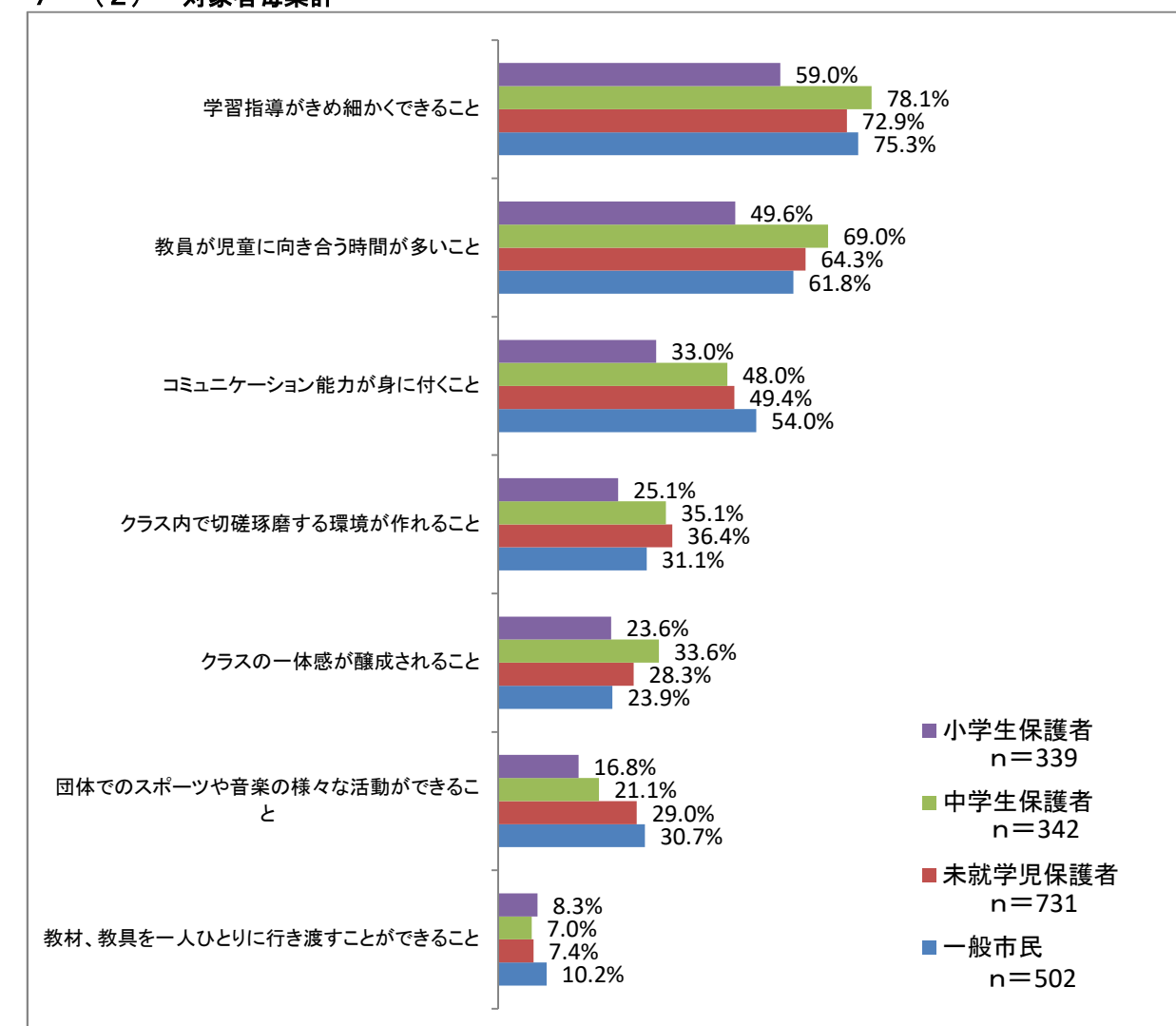
特に、小学生保護者の回答では「学習指導がきめ細かくできること」が79.9ポイント、「教員が児童に向き合う時間が多いこと」が71.4ポイントと多くなっている。また、「コミュニケーション能力が身に付くこと」を回答した割合は、小学生保護者と中学生保護者が5割以下である一方で、未就学児保護者と一般市民は5割を超えている。

7 中学校の学級人数を決めるにあたり、重要なことは何ですか（3つまで選択）

7－（1） 全体集計



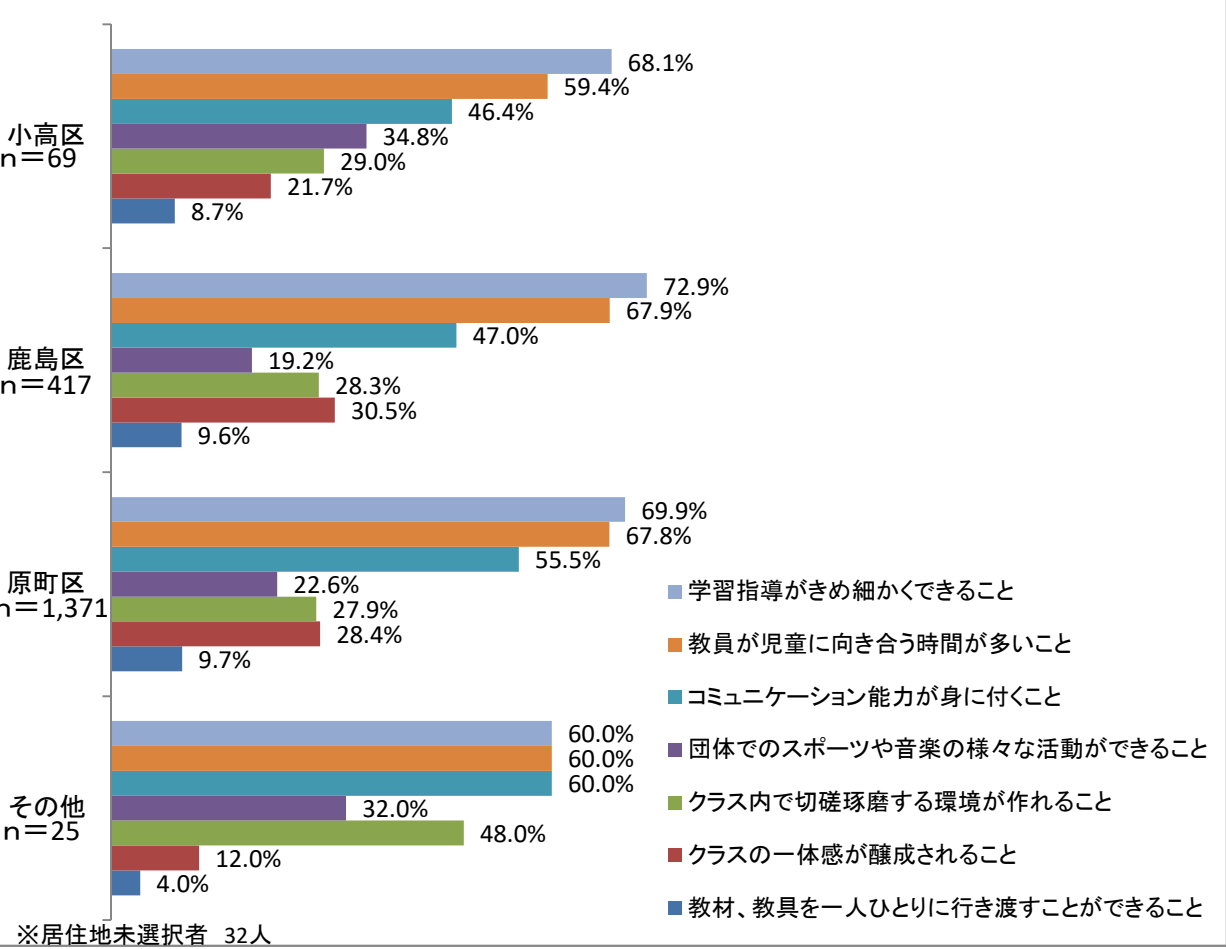
7－（2） 対象者毎集計



中学校の学級人数を決めるにあたり重要なことについては、全ての対象で「学習指導がきめ細かくできること」「教員が児童に向き合う時間が多いこと」「コミュニケーション能力が身に付くこと」の順で回答が多くなっている。

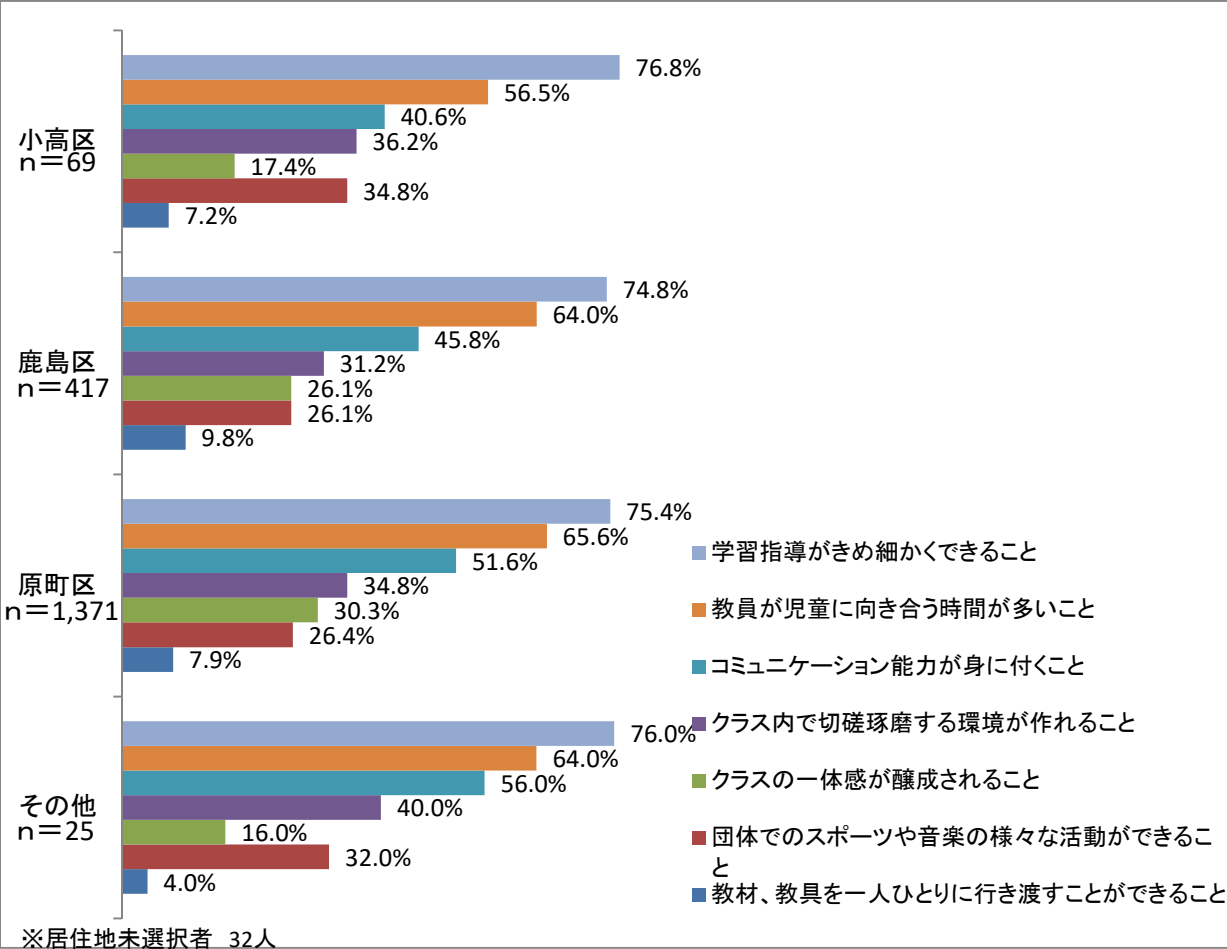
特に、中学生保護者の回答では「学習指導がきめ細かくできること」が78.1ポイント、「教員が児童に向き合う時間が多いこと」が69.0ポイントと多くなっている。また、「コミュニケーション能力が身に付くこと」を回答した割合は、小中学生保護者と未就学児保護者が5割以下である一方で、一般市民は5割を超えている。

2－（3） 居住地毎集計（小高区・鹿島区・原町区・その他）



小学校の学級人数を決めるにあたり重要なことについては、居住地別での回答も、全ての対象で「学習指導がきめ細かくできること」「教員が児童に向き合う時間が多いこと」「コミュニケーション能力が身に付くこと」の順で回答が多くなっている。
小高区と鹿島区で「コミュニケーション能力が身に付くこと」が5割以下となっている一方で、原町区では55.5ポイントとなっている。
鹿島区と原町区で「団体でのスポーツや音楽の様々な活動ができること」が3割以下となっている一方で、小高区では34.8ポイントとなっている。

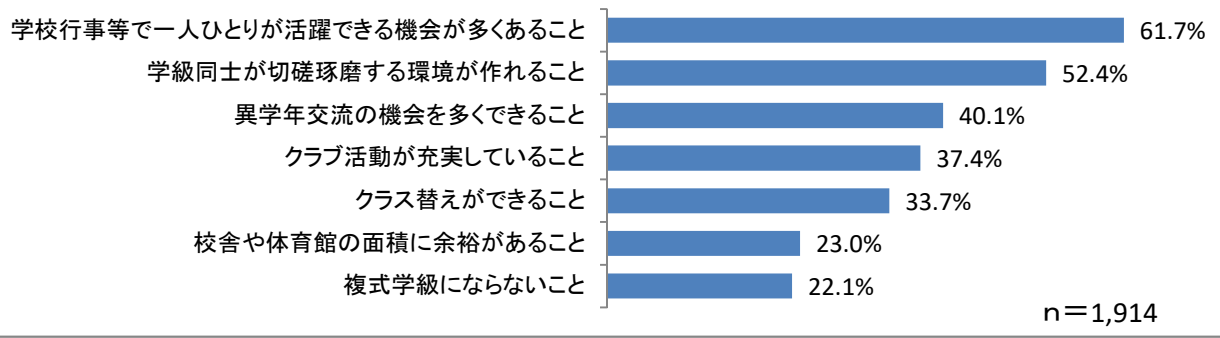
7－（3） 居住地毎集計（小高区・鹿島区・原町区・その他）



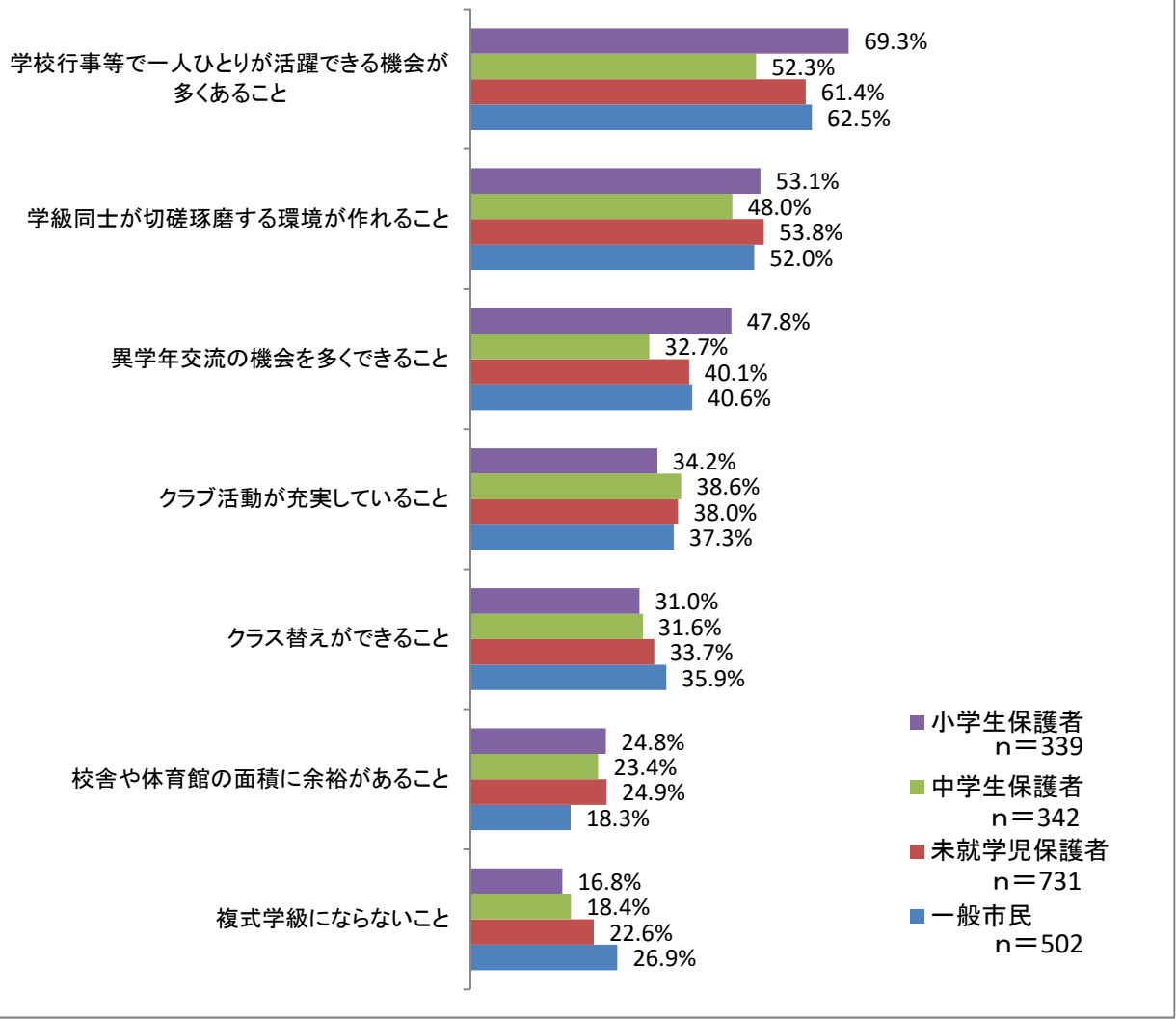
中学校の学級人数を決めるにあたり重要なことについては、居住地別での回答も、全ての対象で「学習指導がきめ細かくできること」「教員が児童に向き合う時間が多いこと」「コミュニケーション能力が身に付くこと」の順で回答が多くなっている。
鹿島区と原町区で「団体でのスポーツや音楽の様々な活動ができること」が3割以下となっている一方で、小高区では34.8ポイントとなっている。

3 小学校の学校規模を決めるにあたり、重要なことは何ですか（3つまで選択）

3－（1） 全体集計



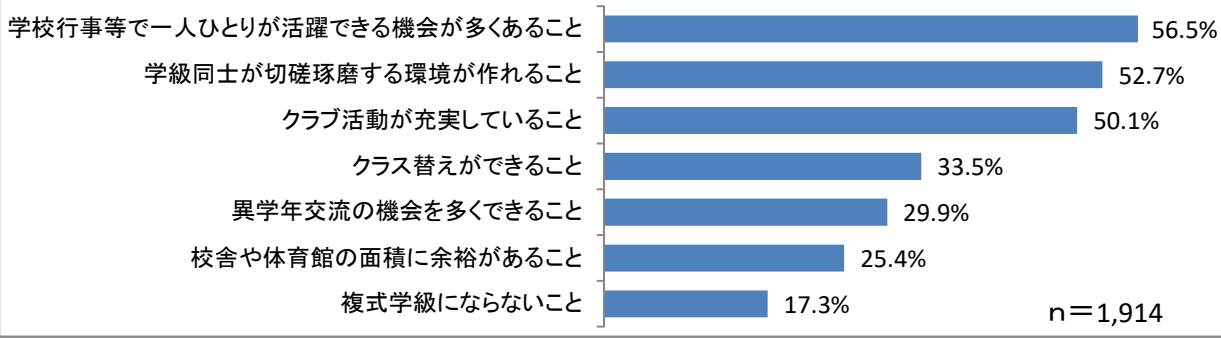
3－（2） 対象者毎集計



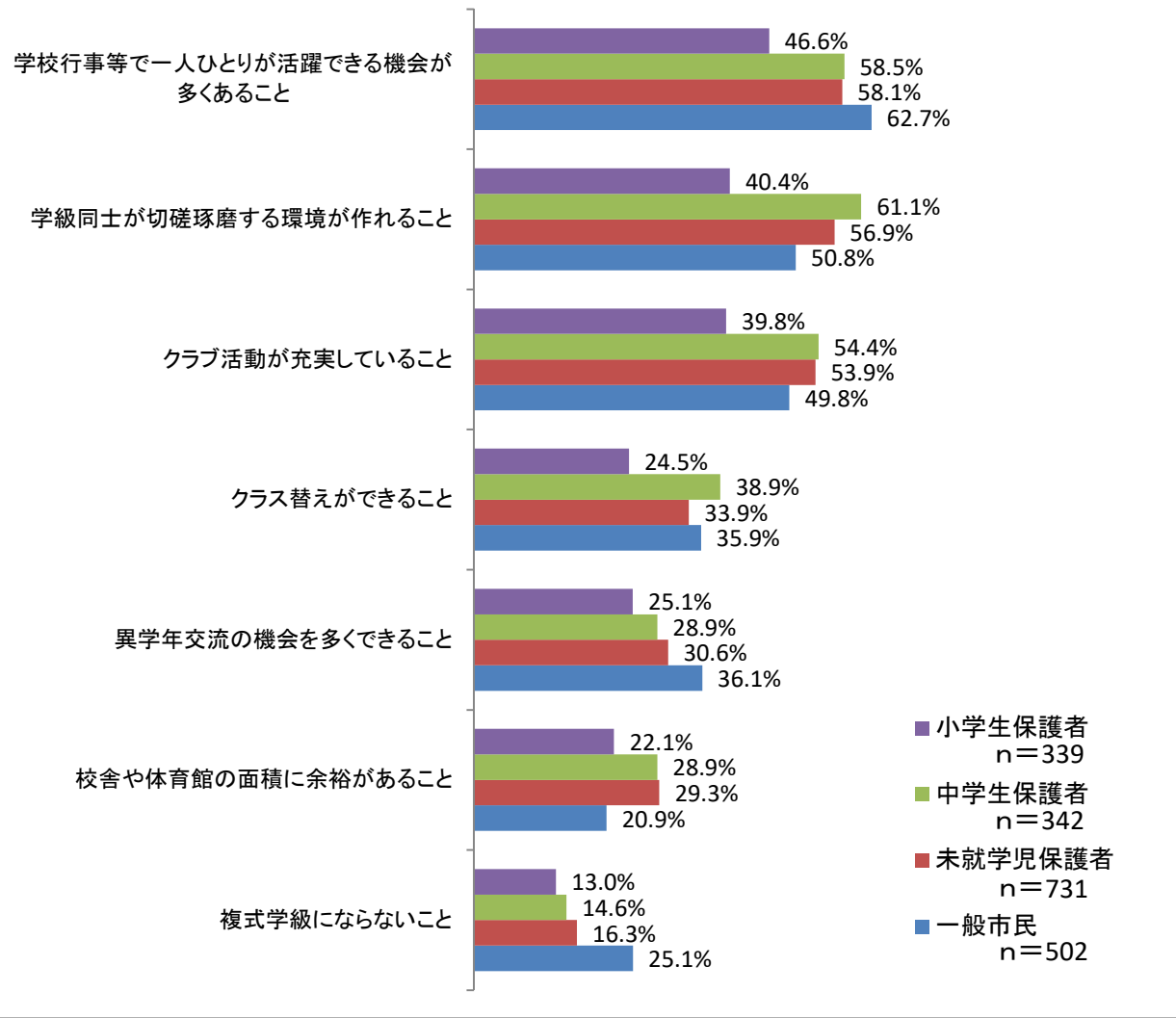
小学校の学校規模を決めるにあたり重要なことについては、全ての調査対象で「学校行事等で一人ひとりが活躍できる機会が多くあること」「学級同士が切磋琢磨する環境が作れること」の順で回答が多くなっている。一般市民は、「クラス替えができること」「複式学級にならないこと」の回答が他の調査対象より多くなっている。

8 中学校の学校規模を決めるにあたり、重要なことは何ですか（3つまで選択）

8－（1） 全体集計

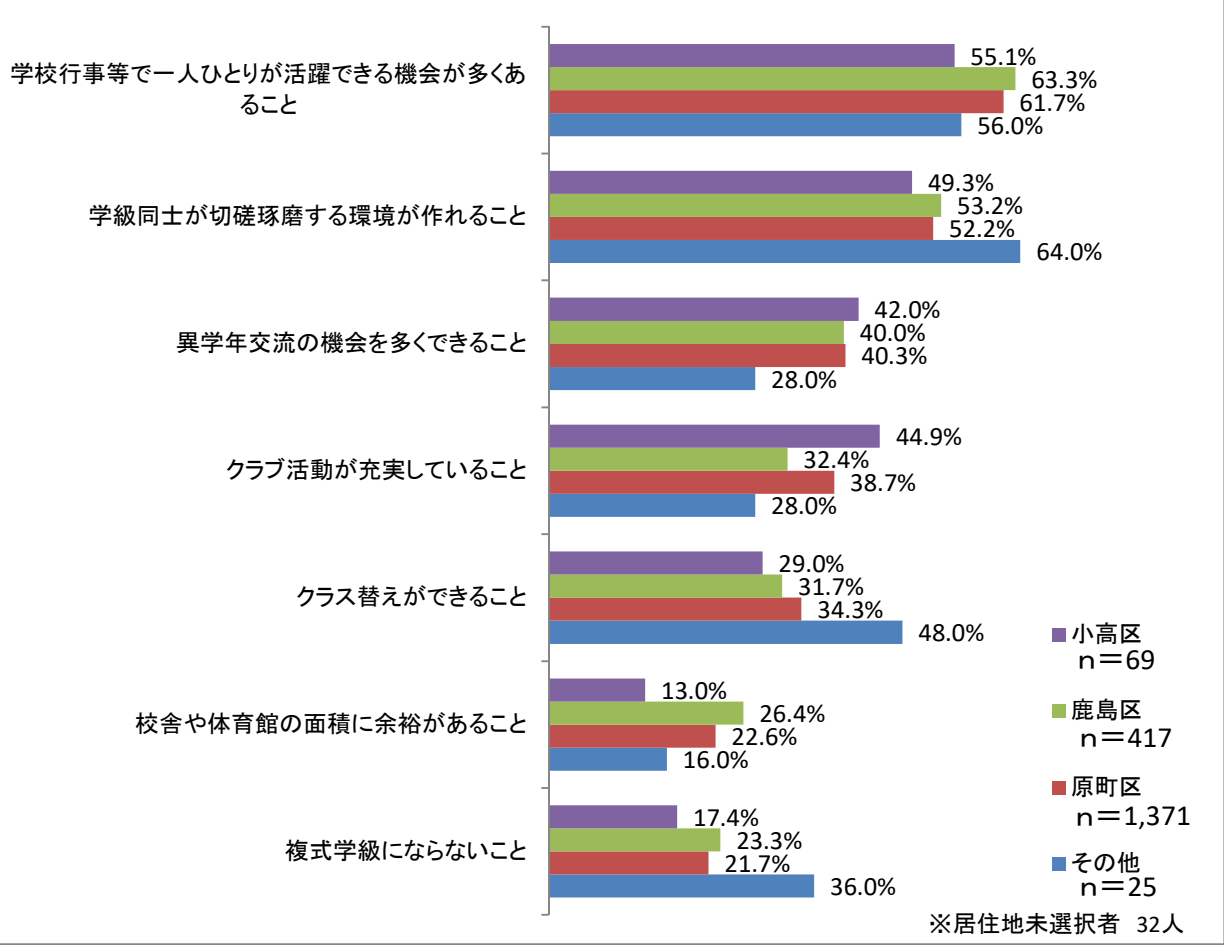


8－（2） 対象者毎集計



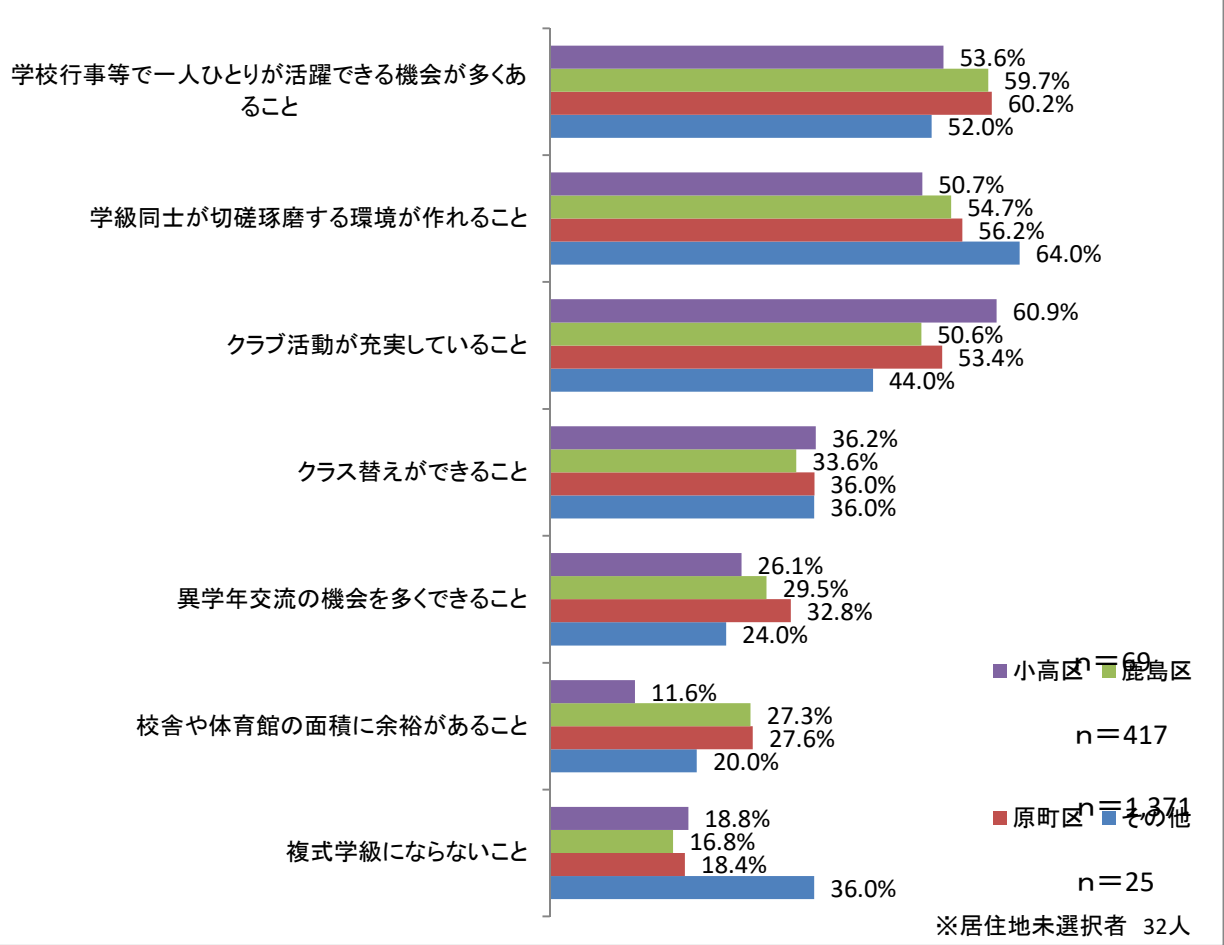
中学校の学校規模を決めるにあたり重要なことについては、小学生保護者・未就学児保護者・一般市民が「学校行事等で一人ひとりが活躍できる機会が多くあること」を最も多く回答している一方、中学生保護者は「学級同士が切磋琢磨する環境が作れること」と最も多く回答しており、「クラス替えができること」の回答が他の調査対象より多くなっている。一般市民は「異学年交流の機会を多くできること」「複式学級にならないこと」の回答が他の調査対象より多くなっている。

3－（3） 居住地毎集計（小高区・鹿島区・原町区・その他）



小学校の学校規模を決めるにあたり重要なことについては、その他を除く全ての居住区で「学校行事等で一人ひとりが活躍できる機会が多くあること」「学級同士が切磋琢磨する環境が作れること」の順で回答が多くなっている。また、小高区では、「クラブ活動が充実していること」の回答が他の調査対象より多くなっている。

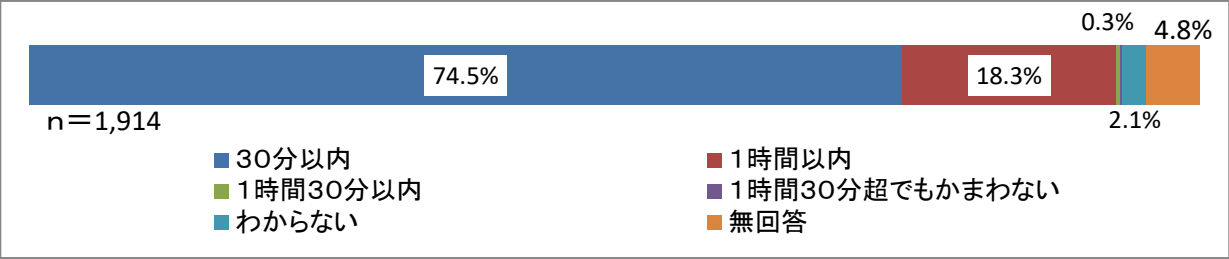
8－（3） 居住地毎集計（小高区・鹿島区・原町区・その他）



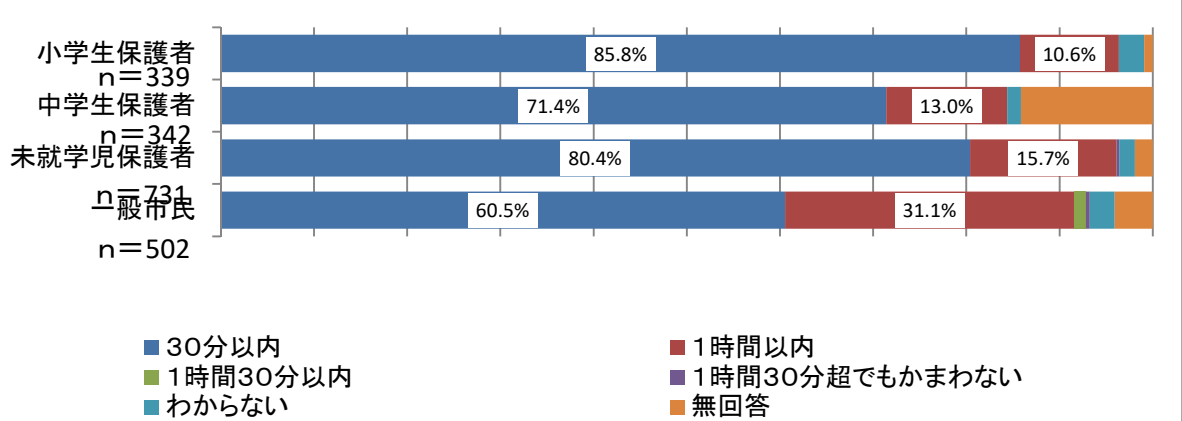
中学校の学校規模を決めるにあたり重要なことについては、鹿島区と原町区で「学校行事等で一人ひとりが活躍できる機会が多くあること」「学級同士が切磋琢磨する環境が作れること」の順で多く回答しており、小高区は「クラブ活動が充実していること」「学校行事等で一人ひとりが活躍できる機会が多くあること」の順で多く回答されている。

4 小学校までの通学時間は、どのくらいが望ましいですか（1つ選択）

4－（1） 全体集計

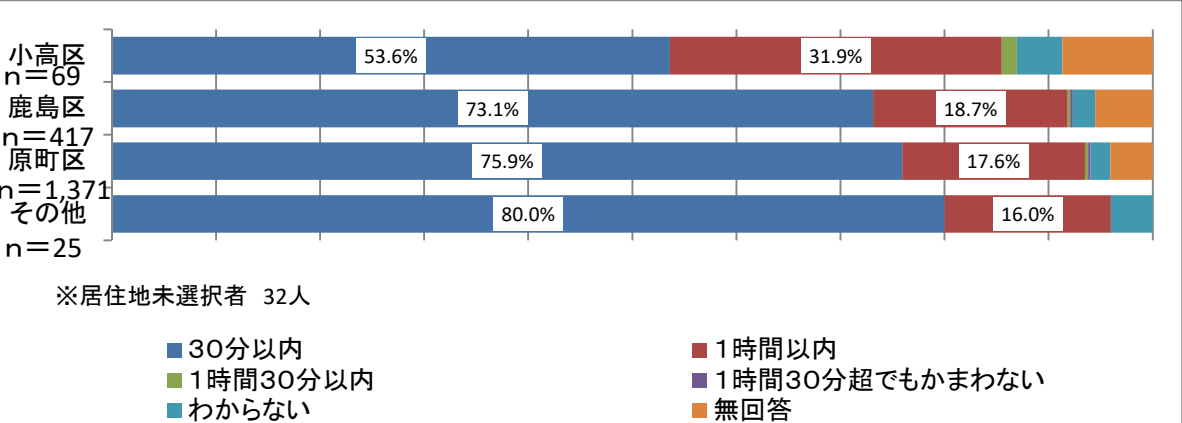


4－（2） 対象者毎集計



小学校の望ましい通学時間については、全ての調査対象で「30分以内」の回答が多くなっている。次いで「1時間以内」の回答が多く、特に一般市民が顕著である。

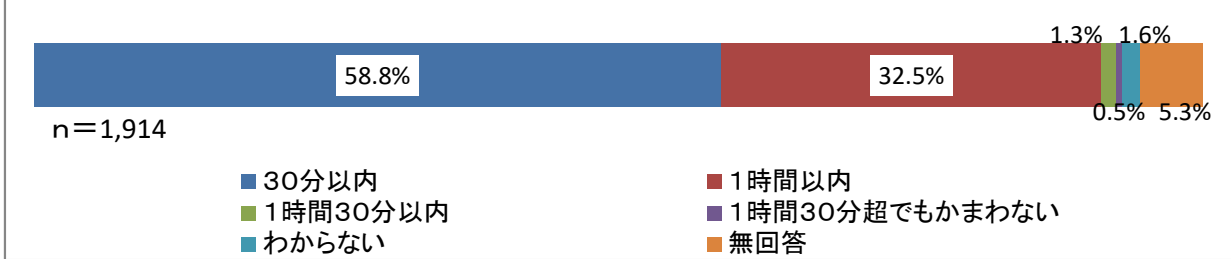
4－（3） 居住地毎集計（小高区・鹿島区・原町区・その他）



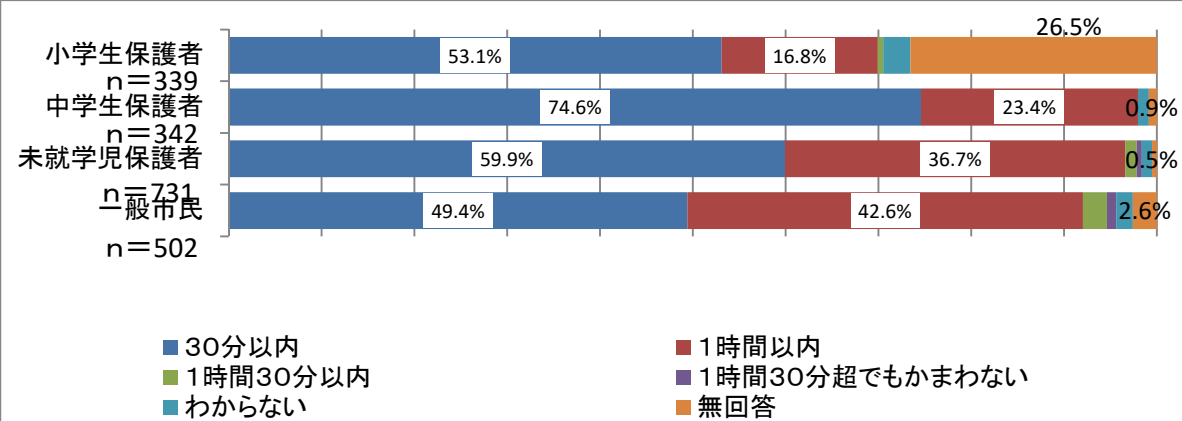
小学校の望ましい通学時間については、全ての区で「30分以内」の回答が多くなっている。次いで「1時間以内」の回答が多く、特に小高区が顕著である。

9 中学校までの通学時間は、どのくらいが望ましいですか（1つ選択）

9－（1） 全体集計

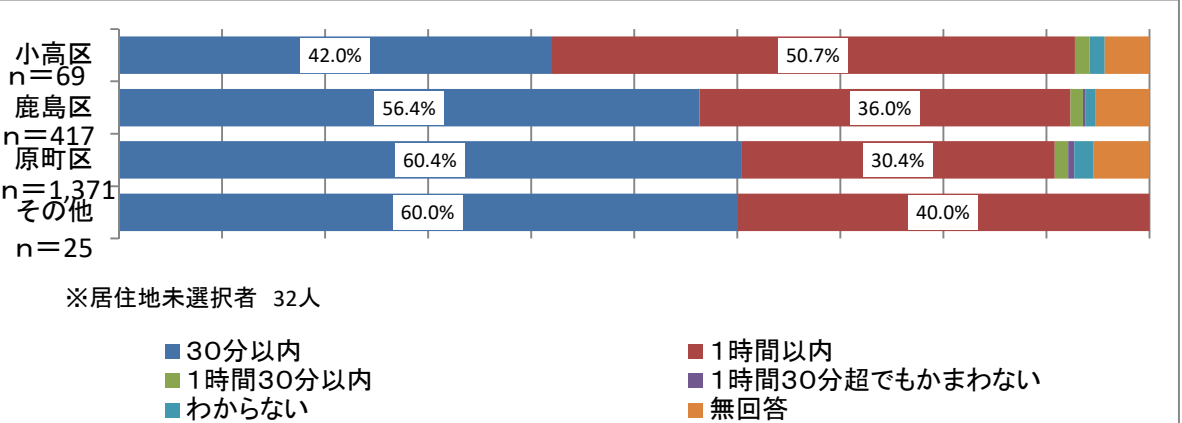


9－（2） 対象者毎集計



中学校の望ましい通学時間については、全ての調査対象で「30分以内」の回答が多くなっている。次いで「1時間以内」の回答が多く、特に未就学児保護者・一般市民が顕著

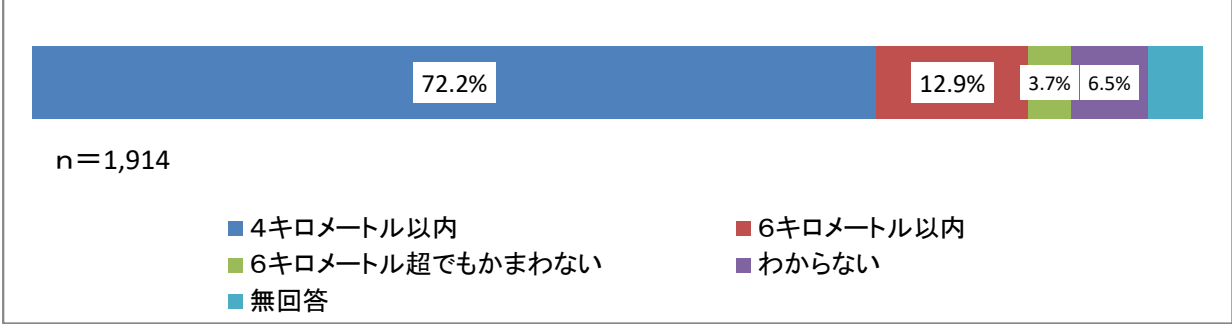
9－（3） 居住地毎集計（小高区・鹿島区・原町区・その他）



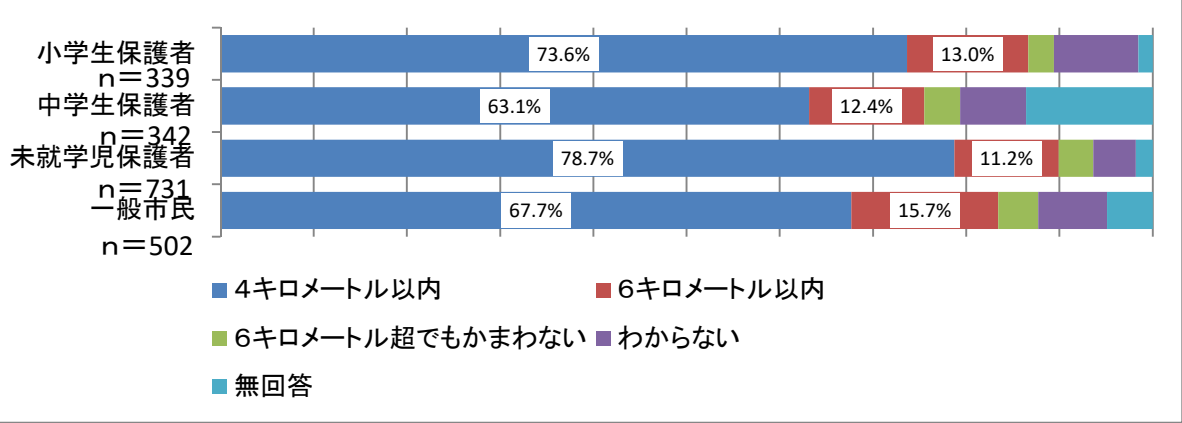
中学校の望ましい通学時間については、小高区以外の調査対象で「30分以内」の回答が多くなっている。次いで「1時間以内」の回答が多い一方、小高区は「1時間以内」が最も多く、次いで「30分以内」となっている。

5 小学校までの通学距離は、どのくらいが望ましいですか（1つ選択）

5－（1） 全体集計

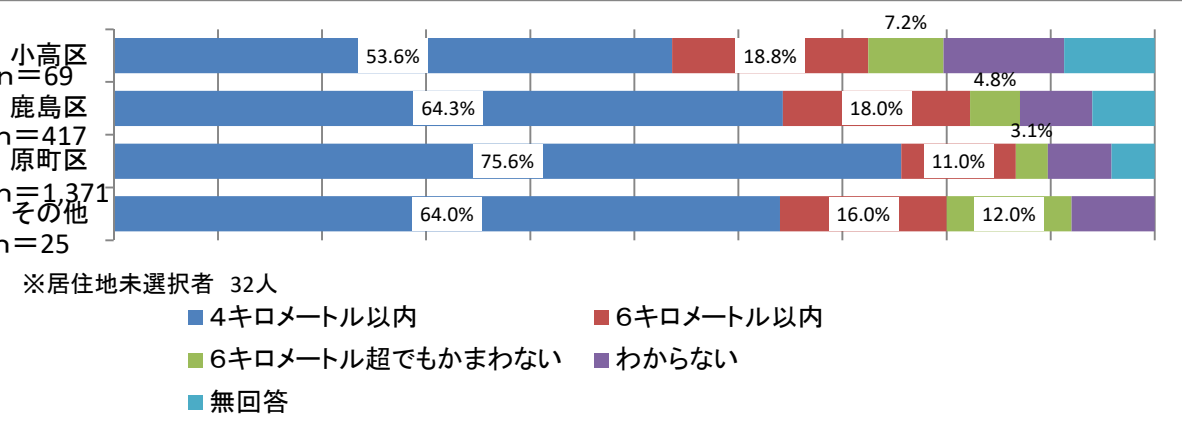


5－（2） 対象者毎集計



小学校までの望ましい通学距離については、全ての調査対象で「4キロメートル以内」の回答が最も多く、次いで「6キロメートル以内」となっている。特に、未就学児保護者の回答で「4キロメートル以内」は78.7ポイントであった。

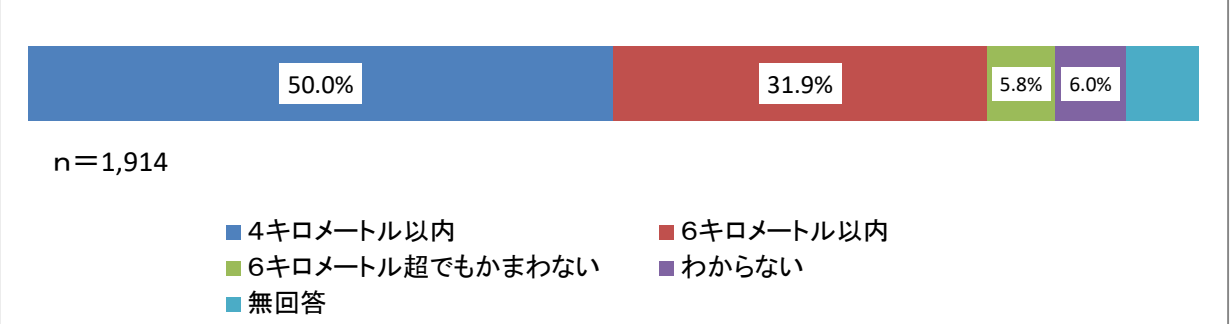
5－（3） 居住地毎集計（小高区・鹿島区・原町区・その他）



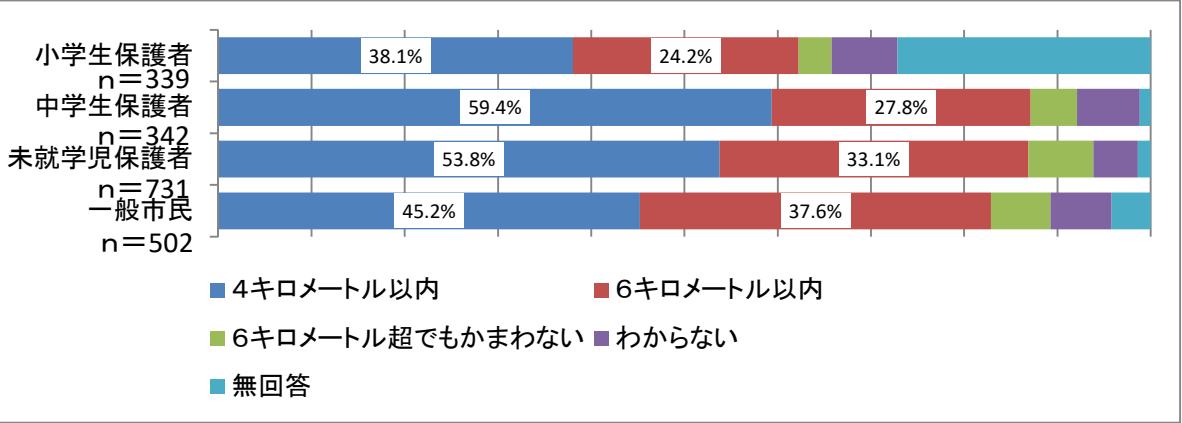
小学校までの望ましい通学距離については、全ての区で「4キロメートル以内」の回答が最も多く、次いで「6キロメートル以内」となっている。特に、原町区の回答で「4キロメートル以内」は75.6ポイントであった。

10 中学校までの通学距離は、どのくらいが望ましいですか（1つ選択）

10－（1） 全体集計

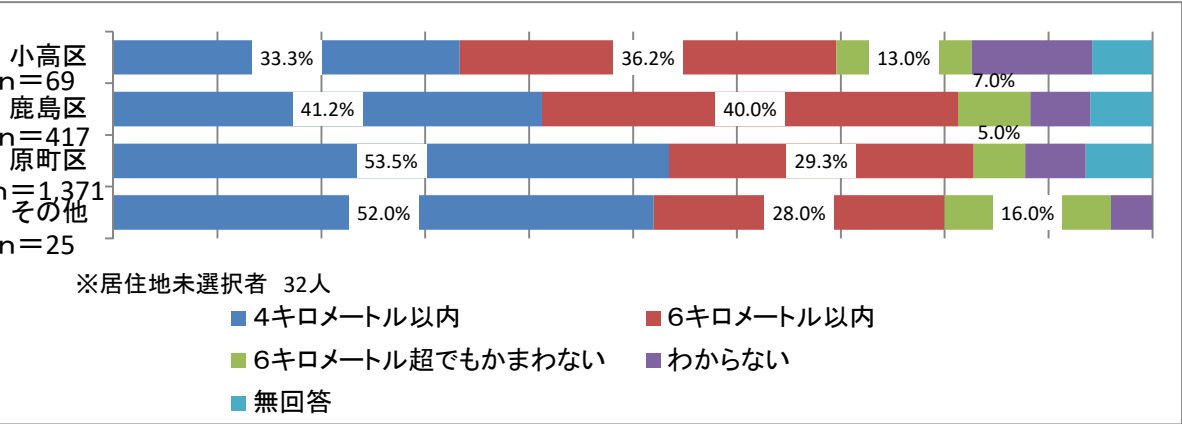


10－（2） 対象者毎集計



中学校までの望ましい通学距離については、全ての調査対象で「4キロメートル以内」の回答が最も多く、次いで「6キロメートル以内」となっている。一般市民で「6キロメートル以内」と回答した割合が比較的多かった。

10－（3） 居住地毎集計（小高区・鹿島区・原町区・その他）



中学校までの望ましい通学距離については、小高区以外は「4キロメートル以内」の回答が最も多く、次いで「6キロメートル以内」となっている。小高区は「6キロメートル以内」が最も回答が多かった。

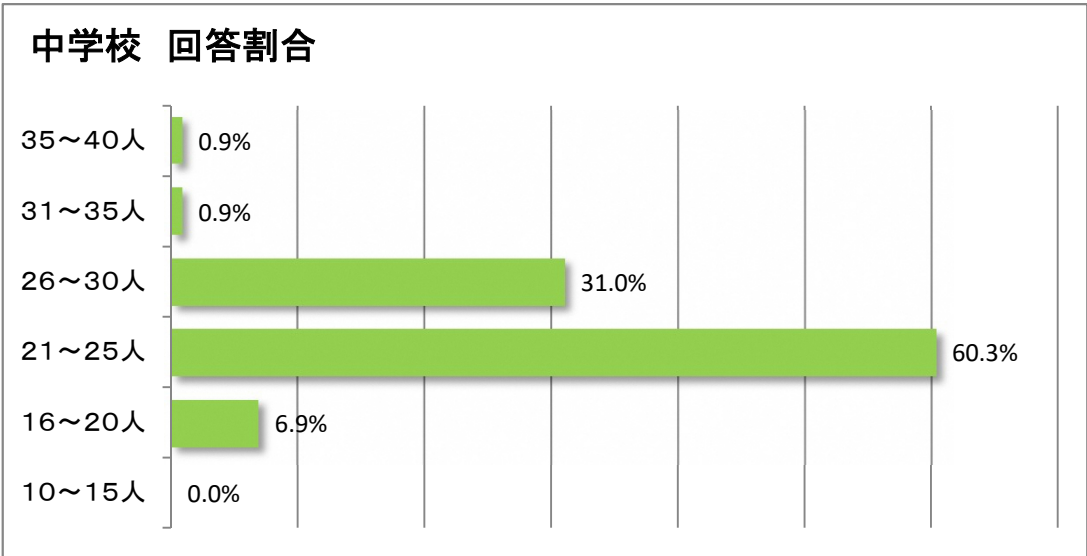
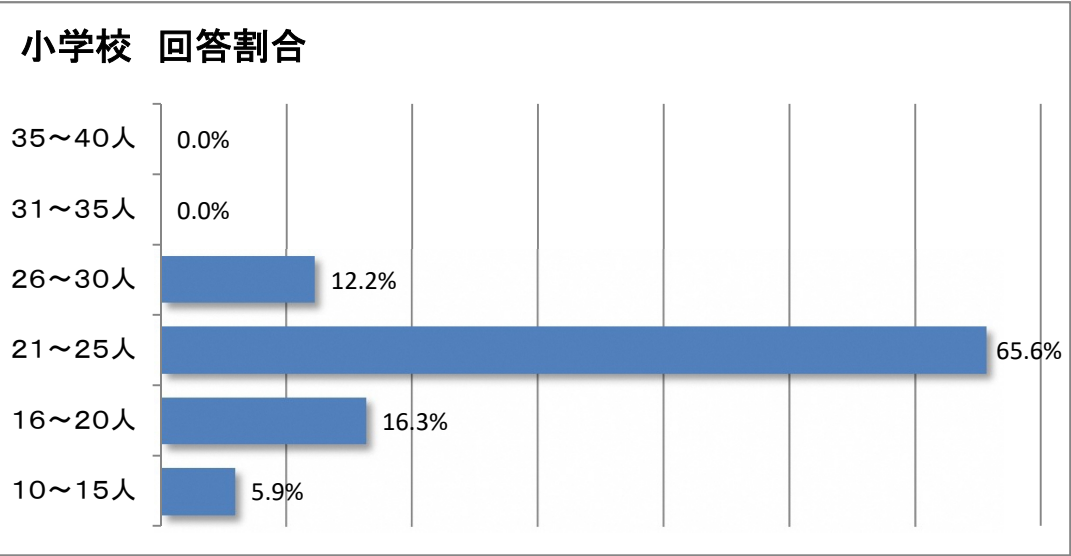
学校適正化に関するアンケート調査結果(教職員)

調査期間 平成30年1月27日～2月7日
 調査対象 市内小中学校教職員(小学校221人、中学校116人)

■ 1学級あたりの望ましい人数(1つ選択)

	原1小	原2小	原3小	高平小	大甕小	太田小	石1小	石2小	鹿島小	八沢小	上真野小	小高4小	計	原1中	原2中	原3中	石神中	鹿島中	小高中	計
10～15人	1	0	2	0	1	2	1	0	1	2	1	2	13	0	0	0	0	0	0	0
15～20人	4	1	0	4	3	4	4	2	3	1	0	10	36	1	1	4	0	2	0	8
21～25人	18	13	12	8	7	4	7	23	19	10	7	17	145	19	10	12	14	7	8	70
26～30人	8	1	4	2	2	1	0	0	4	1	3	1	27	9	7	0	4	12	4	36
31～35人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
35～40人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	31	15	18	14	13	11	12	25	27	14	11	30	221	30	18	16	18	21	13	116

	原1小	原2小	原3小	高平小	大甕小	太田小	石1小	石2小	鹿島小	八沢小	上真野小	小高4小	計	原1中	原2中	原3中	石神中	鹿島中	小高中	計
10～15人	3.2%	0.0%	11.1%	0.0%	7.7%	18.2%	8.3%	0.0%	3.7%	14.3%	9.1%	6.7%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15～20人	12.9%	6.7%	0.0%	28.6%	23.1%	36.4%	33.3%	8.0%	11.1%	7.1%	0.0%	33.3%	16.3%	3.3%	5.6%	25.0%	0.0%	9.5%	0.0%	6.9%
21～25人	58.1%	86.7%	66.7%	57.1%	53.8%	36.4%	58.3%	92.0%	70.4%	71.4%	63.6%	56.7%	65.6%	63.3%	55.6%	75.0%	77.8%	33.3%	61.5%	60.3%
26～30人	25.8%	6.7%	22.2%	14.3%	15.4%	9.1%	0.0%	0.0%	14.8%	7.1%	27.3%	3.3%	12.2%	30.0%	38.9%	0.0%	22.2%	57.1%	30.8%	31.0%
31～35人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
35～40人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	0.9%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

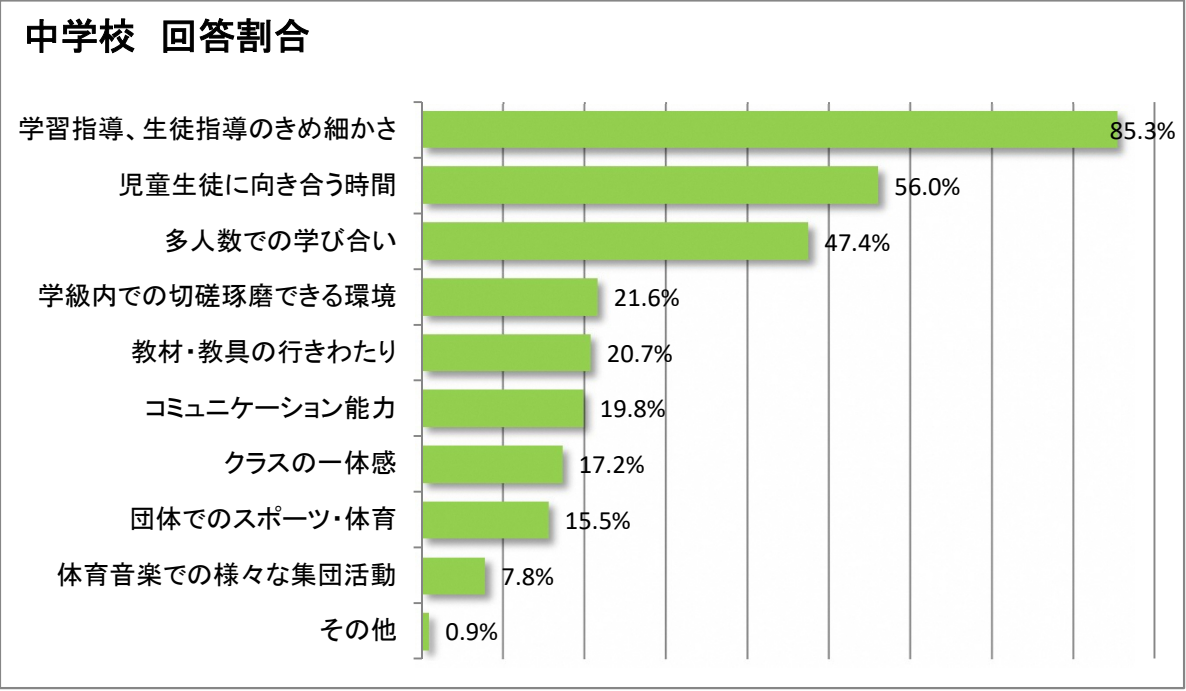
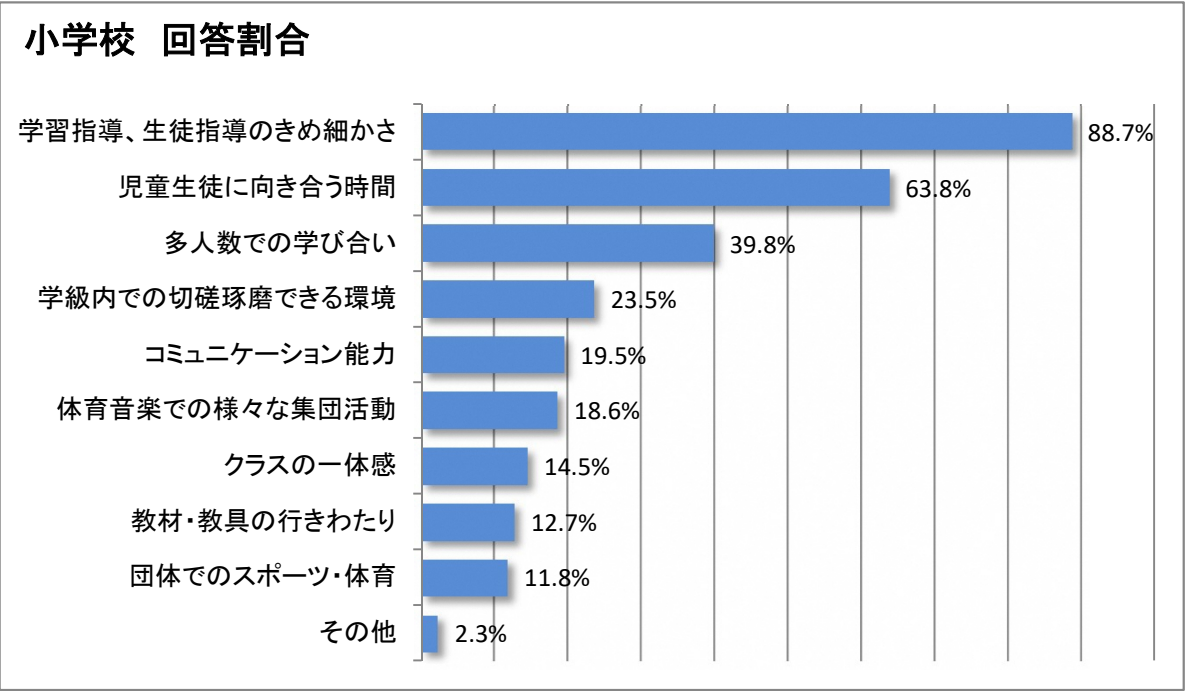


○小学校中学校とも「1学級あたり21～25人」の回答が最も多い。
 ○次いで、小学校で「1学校あたり16～20人」、中学校で「1学級あたり26～30人」の回答が多い。

■学級人数を決めるのに重要なこと(3つまで選択)

	原1小	原2小	原3小	高平小	大甕小	太田小	石1小	石2小	鹿島小	八沢小	上真野小	小高4小	計	原1中	原2中	原3中	石神中	鹿島中	小高中	計
学習指導、生徒指導のきめ細かさ	27	11	17	13	12	9	10	22	26	13	10	26	196	25	15	13	15	21	10	99
クラスの一体感	7	0	3	1	1	1	3	3	3	2	1	7	32	10	3	2	2	2	1	20
児童生徒に向き合う時間	20	7	13	8	10	7	3	18	20	11	7	17	141	16	8	9	12	13	7	65
教材・教具の行きわたり	7	1	2	1	2	3	0	4	3	2	2	1	28	7	4	4	2	3	4	24
学級内での切磋琢磨できる環境	6	8	4	4	4	2	1	5	5	2	2	9	52	6	4	1	6	5	3	25
団体でのスポーツ・体育	4	0	0	3	3	1	5	1	1	2	3	3	26	5	2	3	4	2	2	18
コミュニケーション能力	8	4	5	2	0	3	1	4	5	1	2	8	43	4	5	2	1	7	4	23
多人数での学び合い	10	8	8	6	7	2	4	7	12	5	4	15	88	12	10	9	10	11	3	55
体育音楽での様々な集団活動	3	1	1	4	0	2	7	10	4	4	2	3	41	5	1	1	0	1	1	9
その他	1	1	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	5	0	0	0	0	1	0	1
教職員数	31	15	18	14	13	11	12	25	27	14	11	30	221	30	18	16	18	21	13	116

	原1小	原2小	原3小	高平小	大甕小	太田小	石1小	石2小	鹿島小	八沢小	上真野小	小高4小	計	原1中	原2中	原3中	石神中	鹿島中	小高中	計
学習指導、生徒指導のきめ細かさ	87.1%	73.3%	94.4%	92.9%	92.3%	81.8%	83.3%	88.0%	96.3%	92.9%	90.9%	86.7%	88.7%	83.3%	83.3%	81.3%	83.3%	100.0%	76.9%	85.3%
クラスの一体感	22.6%	0.0%	16.7%	7.1%	7.7%	9.1%	25.0%	12.0%	11.1%	14.3%	9.1%	23.3%	14.5%	33.3%	16.7%	12.5%	11.1%	9.5%	7.7%	17.2%
児童生徒に向き合う時間	64.5%	46.7%	72.2%	57.1%	76.9%	63.6%	25.0%	72.0%	74.1%	78.6%	63.6%	56.7%	63.8%	53.3%	44.4%	56.3%	66.7%	61.9%	53.8%	56.0%
教材・教具の行きわたり	22.6%	6.7%	11.1%	7.1%	15.4%	27.3%	0.0%	16.0%	11.1%	14.3%	18.2%	3.3%	12.7%	23.3%	22.2%	25.0%	11.1%	14.3%	30.8%	20.7%
学級内での切磋琢磨できる環境	19.4%	53.3%	22.2%	28.6%	30.8%	18.2%	8.3%	20.0%	18.5%	14.3%	18.2%	30.0%	23.5%	20.0%	22.2%	6.3%	33.3%	23.8%	23.1%	21.6%
団体でのスポーツ・体育	12.9%	0.0%	0.0%	21.4%	23.1%	9.1%	41.7%	4.0%	3.7%	14.3%	27.3%	10.0%	11.8%	16.7%	11.1%	18.8%	22.2%	9.5%	15.4%	15.5%
コミュニケーション能力	25.8%	26.7%	27.8%	14.3%	0.0%	27.3%	8.3%	16.0%	18.5%	7.1%	18.2%	26.7%	19.5%	13.3%	27.8%	12.5%	5.6%	33.3%	30.8%	19.8%
多人数での学び合い	32.3%	53.3%	44.4%	42.9%	53.8%	18.2%	33.3%	28.0%	44.4%	35.7%	36.4%	50.0%	39.8%	40.0%	55.6%	56.3%	55.6%	52.4%	23.1%	47.4%
体育音楽での様々な集団活動	9.7%	6.7%	5.6%	28.6%	0.0%	18.2%	58.3%	40.0%	14.8%	28.6%	18.2%	10.0%	18.6%	16.7%	5.6%	6.3%	0.0%	4.8%	7.7%	7.8%
その他	3.2%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%	0.9%

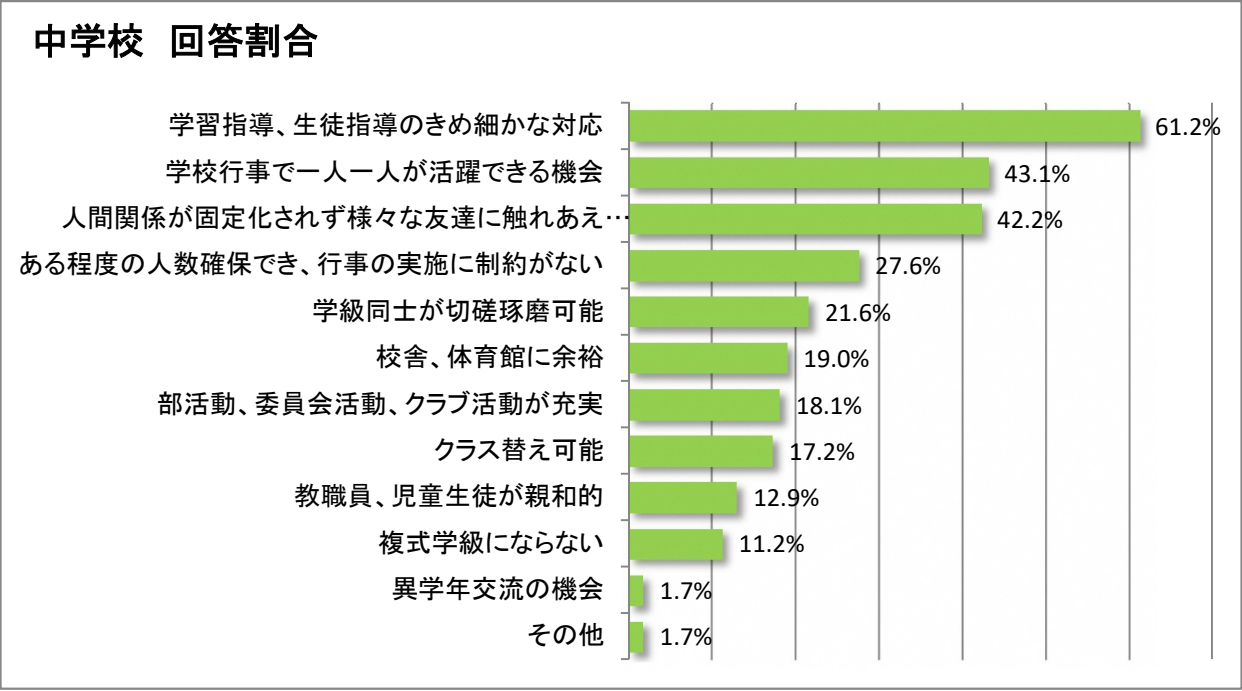
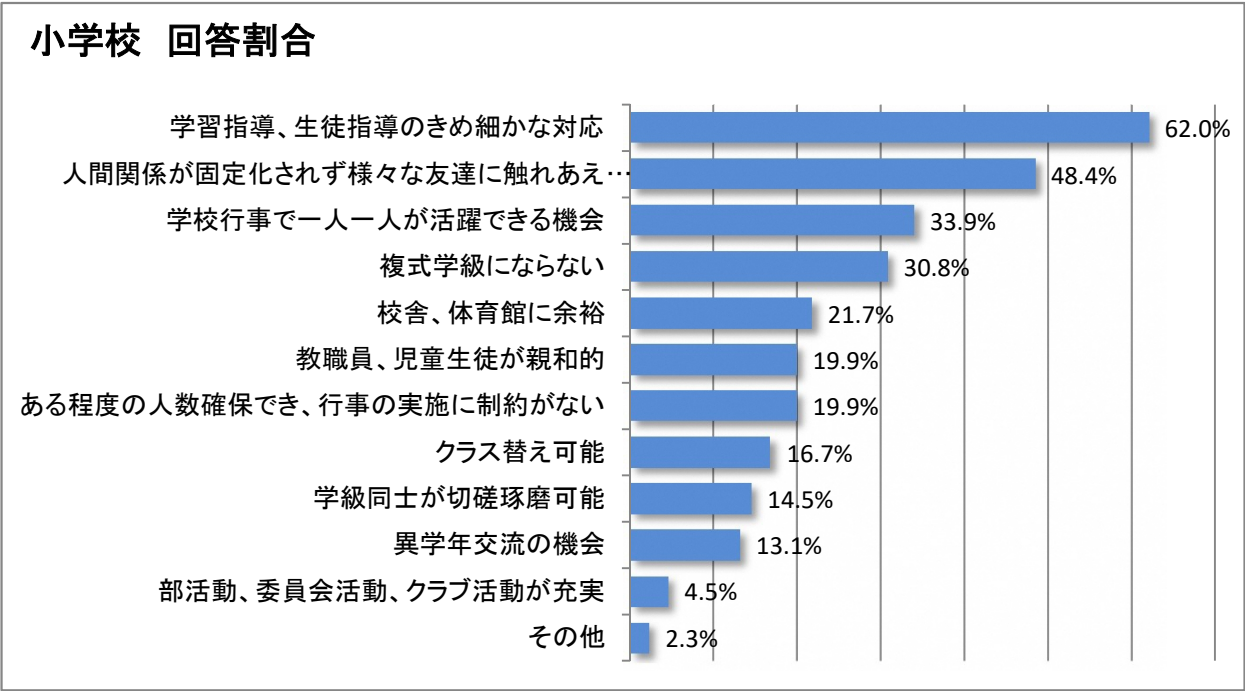


○小学校中学校とも「学習指導、生徒指導のきめ細かさ」「児童生徒に向き合う時間」「多人数での学び合い」の順で回答が多い。

■学校規模を決めるのに重要なこと(3つまで選択)

	原1小	原2小	原3小	高平小	大甕小	太田小	石1小	石2小	鹿島小	八沢小	上真野小	小高4小	計	原1中	原2中	原3中	石神中	鹿島中	小高中	計
学校行事で一人一人が活躍できる機会	11	3	6	3	6	6	3	7	8	6	3	13	75	15	5	8	5	10	7	50
校舎、体育館に余裕	11	0	2	3	1	3	2	7	7	4	0	8	48	9	4	1	2	3	3	22
異学年交流の機会	3	6	3	1	1	0	0	5	1	2	3	4	29	1	0	0	1	0	0	2
教職員、児童生徒が親和的	7	0	7	4	3	0	1	5	8	2	1	6	44	2	2	2	4	3	2	15
学習指導、生徒指導のきめ細かな対応	15	5	12	9	11	8	11	13	19	9	7	18	137	13	13	8	14	16	7	71
クラス替え可能	7	2	5	0	0	0	2	9	5	2	1	4	37	5	2	5	2	2	4	20
部活動、委員会活動、クラブ活動が充実	0	0	1	0	1	0	0	3	0	0	3	2	10	6	5	4	3	0	3	21
学級同士が切磋琢磨可能	5	7	1	5	2	0	2	2	5	1	2	0	32	2	5	4	5	5	4	25
複式学級にならない	12	3	2	4	1	5	6	7	10	6	3	9	68	8	0	1	2	0	2	13
人間関係が固定化されず様々な友達に	10	12	8	7	10	6	3	11	11	9	5	15	107	12	8	11	5	11	2	49
ある程度の人数確保でき、行事の実施に	5	4	4	6	4	1	4	5	2	1	2	6	44	7	7	5	7	4	2	32
その他	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	5	2	0	0	0	0	0	2
教職員数	31	15	18	14	13	11	12	25	27	14	11	30	221	30	18	16	18	21	13	116

	原1小	原2小	原3小	高平小	大甕小	太田小	石1小	石2小	鹿島小	八沢小	上真野小	小高4小	計	原1中	原2中	原3中	石神中	鹿島中	小高中	計
学校行事で一人一人が活躍できる機会	35.5%	20.0%	33.3%	21.4%	46.2%	54.5%	25.0%	28.0%	29.6%	42.9%	27.3%	43.3%	33.9%	50.0%	27.8%	50.0%	27.8%	47.6%	53.8%	43.1%
校舎、体育館に余裕	35.5%	0.0%	11.1%	21.4%	7.7%	27.3%	16.7%	28.0%	25.9%	28.6%	0.0%	26.7%	21.7%	30.0%	22.2%	6.3%	11.1%	14.3%	23.1%	19.0%
異学年交流の機会	9.7%	40.0%	16.7%	7.1%	7.7%	0.0%	0.0%	20.0%	3.7%	14.3%	27.3%	13.3%	13.1%	3.3%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	1.7%
教職員、児童生徒が親和的	22.6%	0.0%	38.9%	28.6%	23.1%	0.0%	8.3%	20.0%	29.6%	14.3%	9.1%	20.0%	19.9%	6.7%	11.1%	12.5%	22.2%	14.3%	15.4%	12.9%
学習指導、生徒指導のきめ細かな対応	48.4%	33.3%	66.7%	64.3%	84.6%	72.7%	91.7%	52.0%	70.4%	64.3%	63.6%	60.0%	62.0%	43.3%	72.2%	50.0%	77.8%	76.2%	53.8%	61.2%
クラス替え可能	22.6%	13.3%	27.8%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	36.0%	18.5%	14.3%	9.1%	13.3%	16.7%	16.7%	11.1%	31.3%	11.1%	9.5%	30.8%	17.2%
部活動、委員会活動、クラブ活動が充実	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	12.0%	0.0%	0.0%	27.3%	6.7%	4.5%	20.0%	27.8%	25.0%	16.7%	0.0%	23.1%	18.1%
学級同士が切磋琢磨可能	16.1%	46.7%	5.6%	35.7%	15.4%	0.0%	16.7%	8.0%	18.5%	7.1%	18.2%	0.0%	14.5%	6.7%	27.8%	25.0%	27.8%	23.8%	30.8%	21.6%
複式学級にならない	38.7%	20.0%	11.1%	28.6%	7.7%	45.5%	50.0%	28.0%	37.0%	42.9%	27.3%	30.0%	30.8%	26.7%	0.0%	6.3%	11.1%	0.0%	15.4%	11.2%
人間関係が固定化されず様々な友達に	32.3%	80.0%	44.4%	50.0%	76.9%	54.5%	25.0%	44.0%	40.7%	64.3%	45.5%	50.0%	48.4%	40.0%	44.4%	68.8%	27.8%	52.4%	15.4%	42.2%
ある程度の人数確保でき、行事の実施に	16.1%	26.7%	22.2%	42.9%	30.8%	9.1%	33.3%	20.0%	7.4%	7.1%	18.2%	20.0%	19.9%	23.3%	38.9%	31.3%	38.9%	19.0%	15.4%	27.6%
その他	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	7.7%	9.1%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	2.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%



- 小学校中学校とも「学習指導、生徒指導のきめ細かさ」の回答が最も多い。
- 次いで、小学校が「人間関係が固定化されず様々な友達に触れ合う」「学校行事で一人一人が活躍できる機会」の回答が多い。
- 中学校は、「学校行事で一人一人が活躍できる機会」「人間関係が固定化されず様々な友達に触れ合う」の回答が多い。

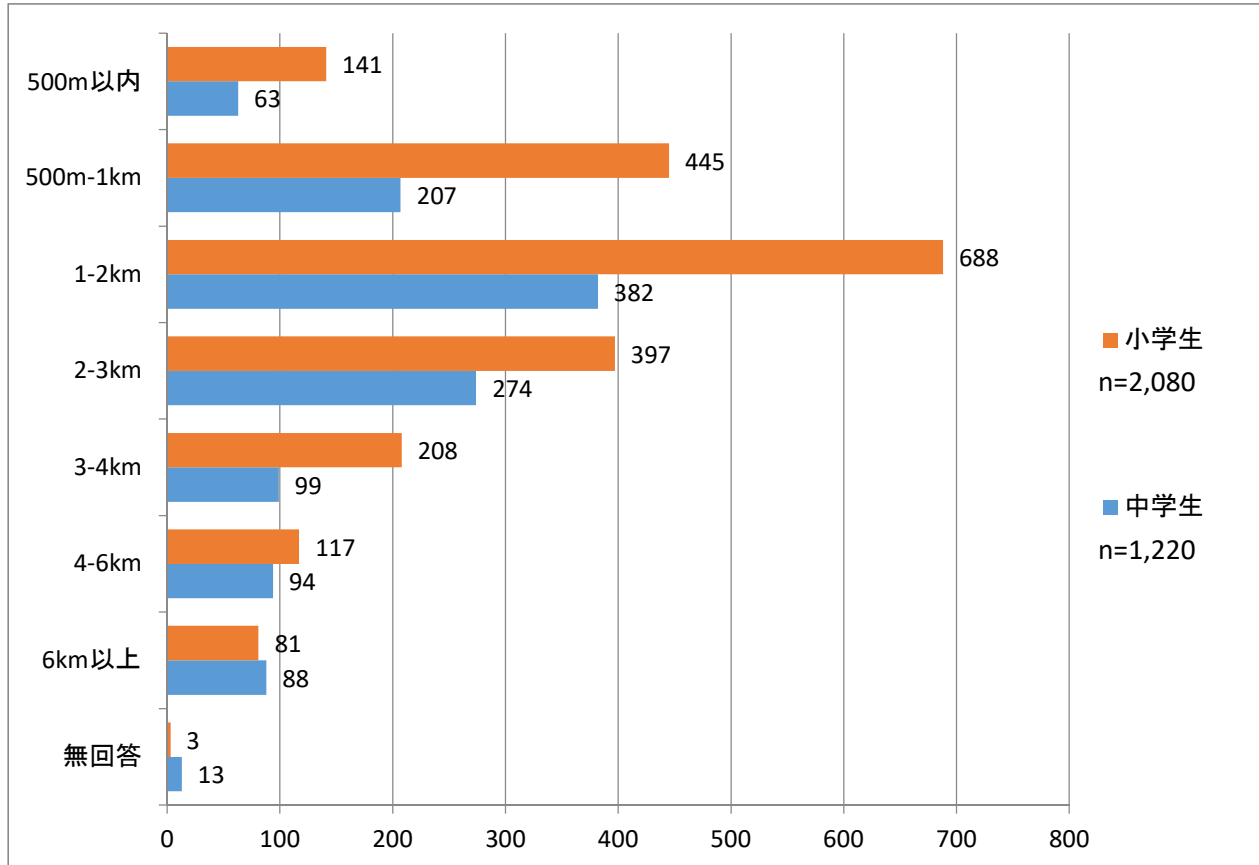
市内児童生徒の通学状況調査結果

- 調査対象 市内小中学生全員
- 調査期間 平成29年8月25日～9月15日
- 調査基準日 平成29年8月25日
- 調査結課 以下のとおり

《 通 学 距 離 の 状 況 》

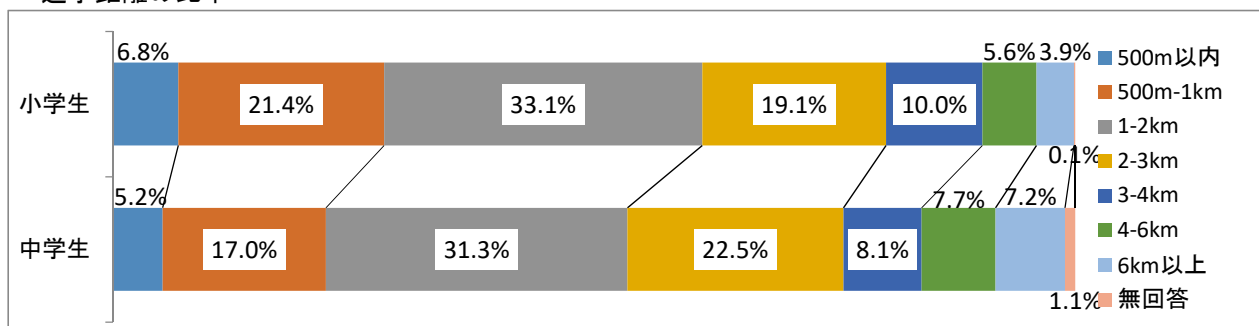
○小学校中学校別の通学距離

・通学距離及びその人数



最も多い通学距離は、小中学生とも1～2kmである。2番目に多いのが小学生は500m～1km、中学生は2～3kmである。

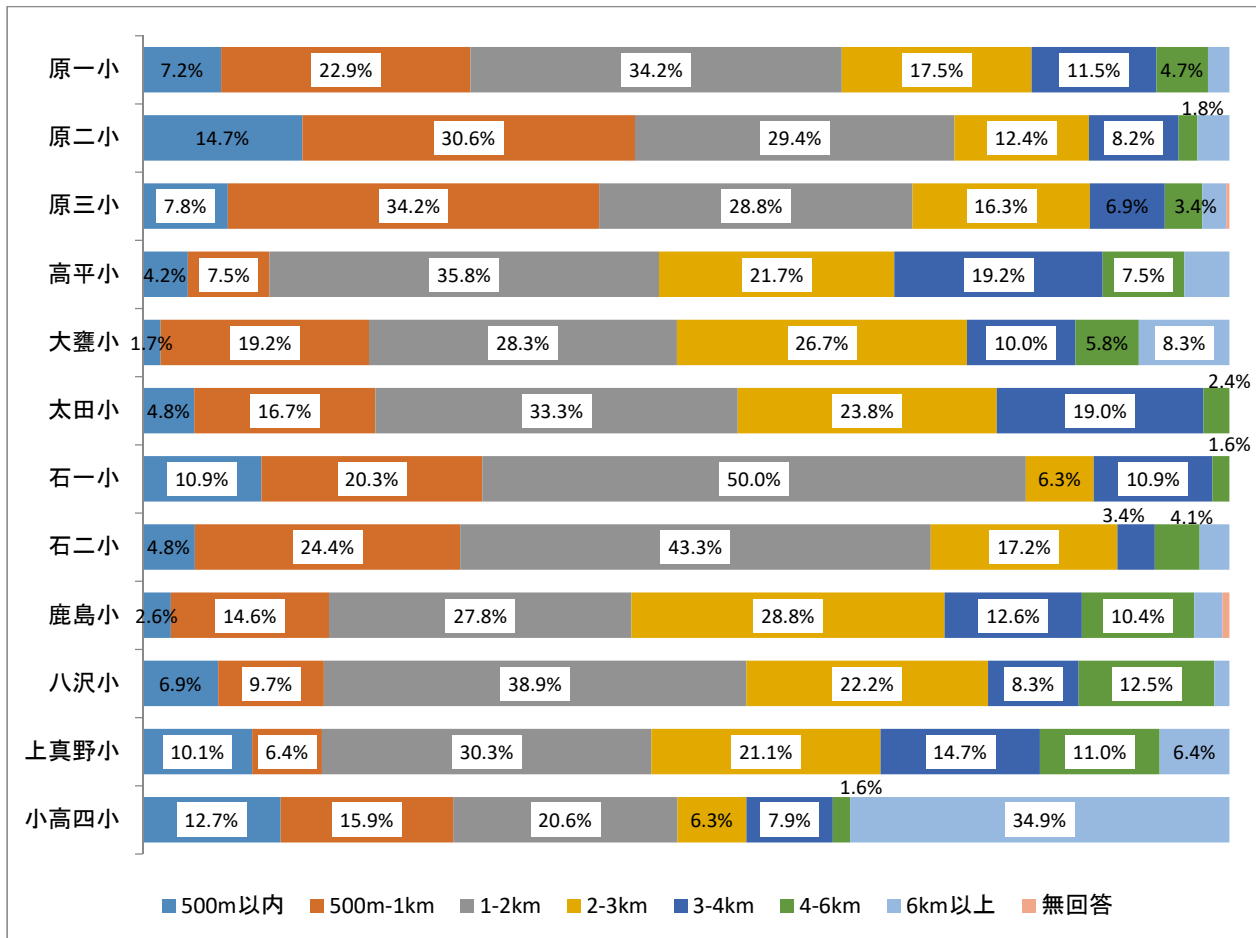
・通学距離の比率



最も多い割合を占める通学距離は、1～2kmであり小中学生とも3割を超えている。(国が示す配置(距離)の基準が、小学校4km以内、中学校6km以内であることを考慮すると、通学距離だけをみると、小中学生とも9割は適正であるという結果である。)

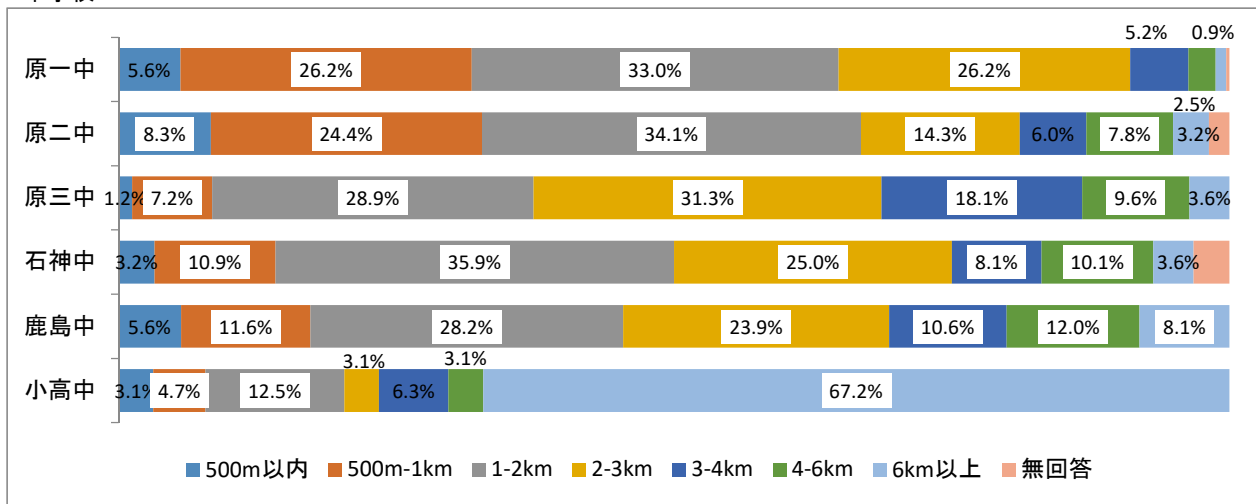
○学校別通学距離の比率

・小学校



小学校の配置(距離)が4km以内を適正な基準とすれば、大甕小・鹿島小・八沢小・上真野小・小高四小が比較的に適正化率が低い。特に「小高四小」は顕著であり、避難先から通学する児童が多いものと推察される。

・中学校

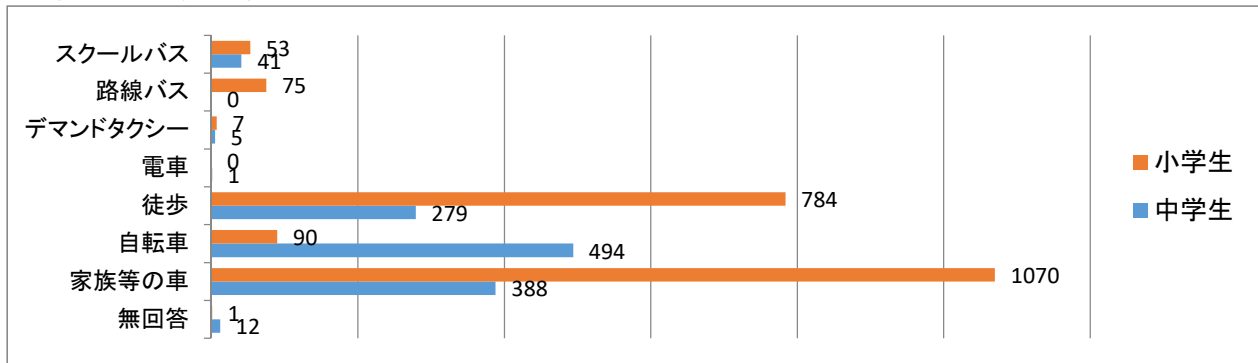


中学校の配置(距離)が6km以内を適正な基準とすれば、石神中・鹿島中・小高中が比較的に適正化率が低い。特に「小高中」は顕著であり、避難先から通学する児童が多いものと推察される。

《 通 学 方 法 の 状 況 》

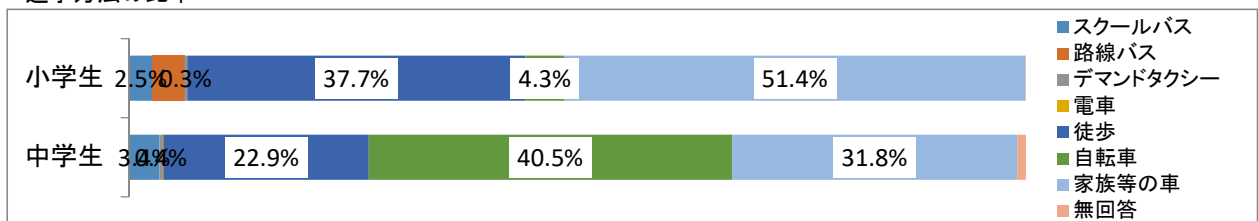
○小学校中学校別の通学方法

・通学方法及びその人数



最も多い通学方法は、小学生は「家族等の車」、次いで「徒歩」である。中学生は「自転車」、次いで「家族等の車」となっている。

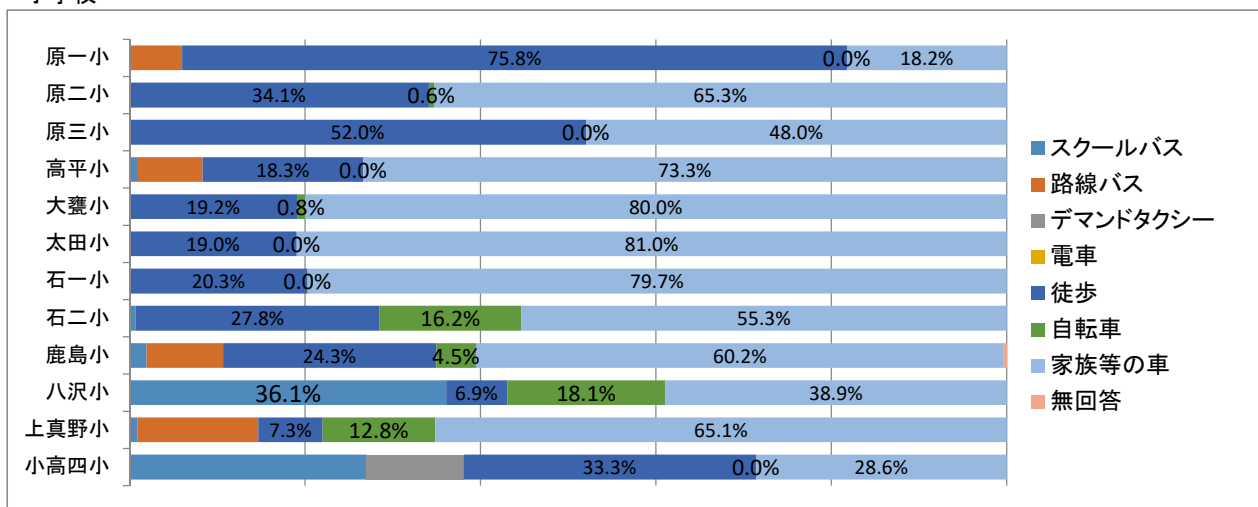
・通学方法の比率



最も多い割合を占める通学距離は、小学生で5割を超える児童が「家族等の車」、次いで「徒歩」が多くなっており、中学生は「自転車」、次いで「家族等の車」となっている。小中学生ともに「家族等の車」が顕著に多い。

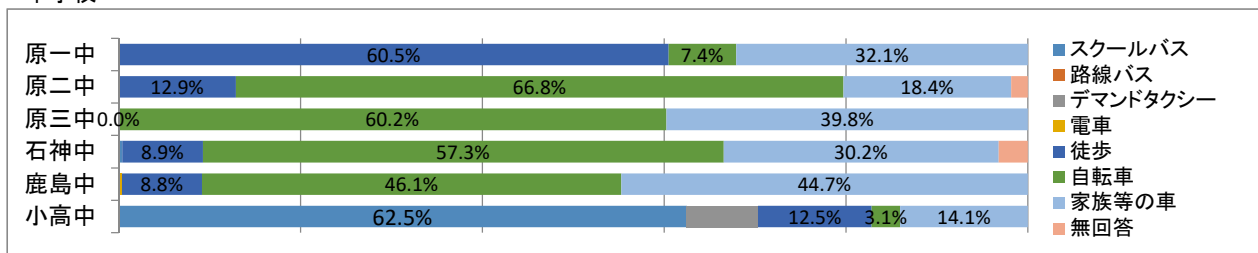
○学校別通学方法の比率

・小学校



小学校では、高平小、大甕小、大甕小、石一小が「家族等の車」で通学する児童が7割を超える。「家族等の車」が比較的に少ない原一小は「徒歩」、八沢小は「スクールバス」の割合が多い。原一小では8割を超える児童が「徒歩」である。

・中学校

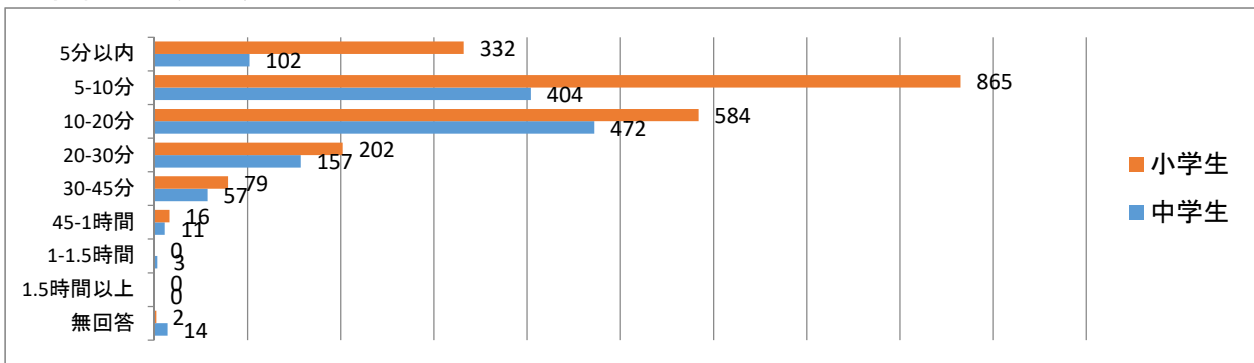


中学校では、原一小は「徒歩」、小高中は「スクールバス」、その他の学校は「自転車」が多い。「家族等の車」については、原二中和小高中が低いのに対して、原一中、原三中、石神中、鹿島中は3割を超えている。

《通学時間の状況》

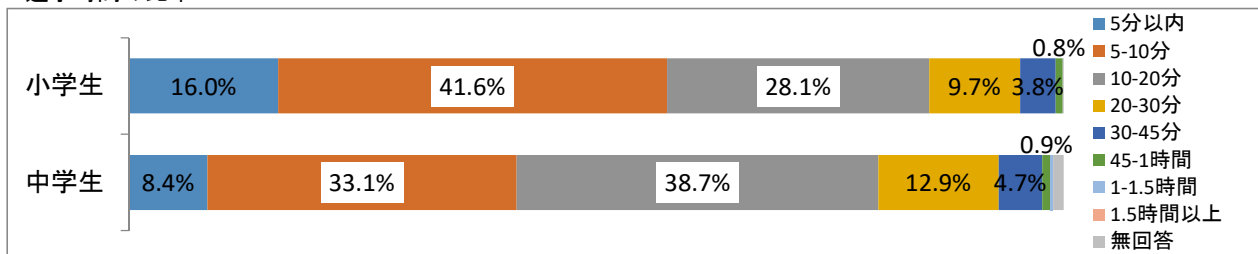
○小学校中学校別の通学時間

・通学時間及びその人数



最も多い通学時間は、小学生は「5～10分」、次いで「10～20分」である。中学生は「10～20分」、次いで「5～10分」となっている。(国が示す配置(通学時間)の基準が1時間以内であることを考慮すると、小学生は全員適正な通学時間となるが、1時間を超える中学生が3人いる。)

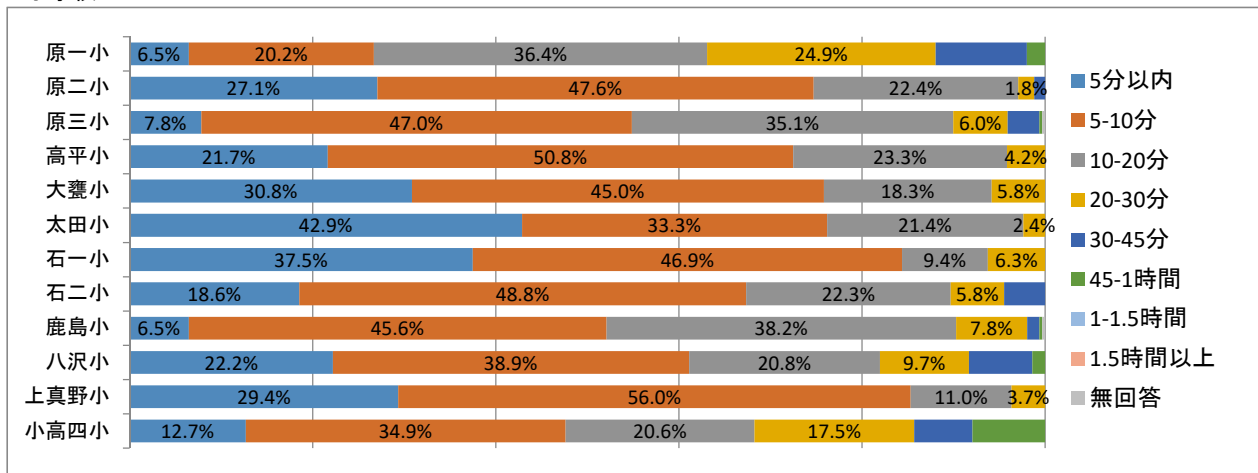
・通学時間の比率



最も多い割合を占める通学時間は、小学生で4割を超える児童が「5～10分」が最も多く、中学生で「10～20分」、次いで「5～10分」の順で多くなっている。

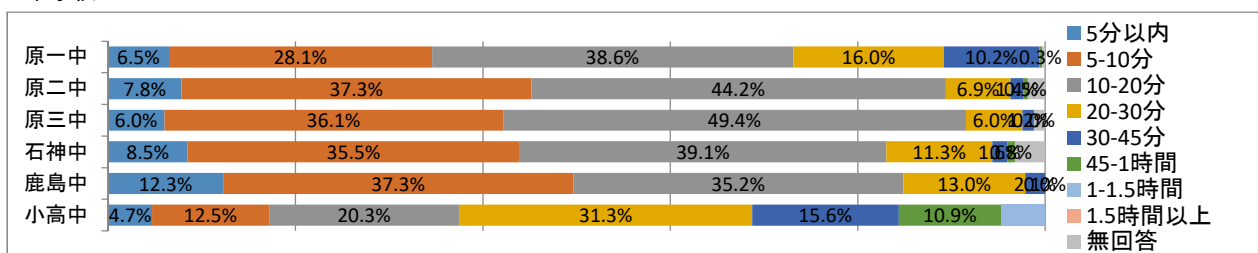
○学校別通学時間の比率

・小学校



小学生の通学時間は全員1時間以内。

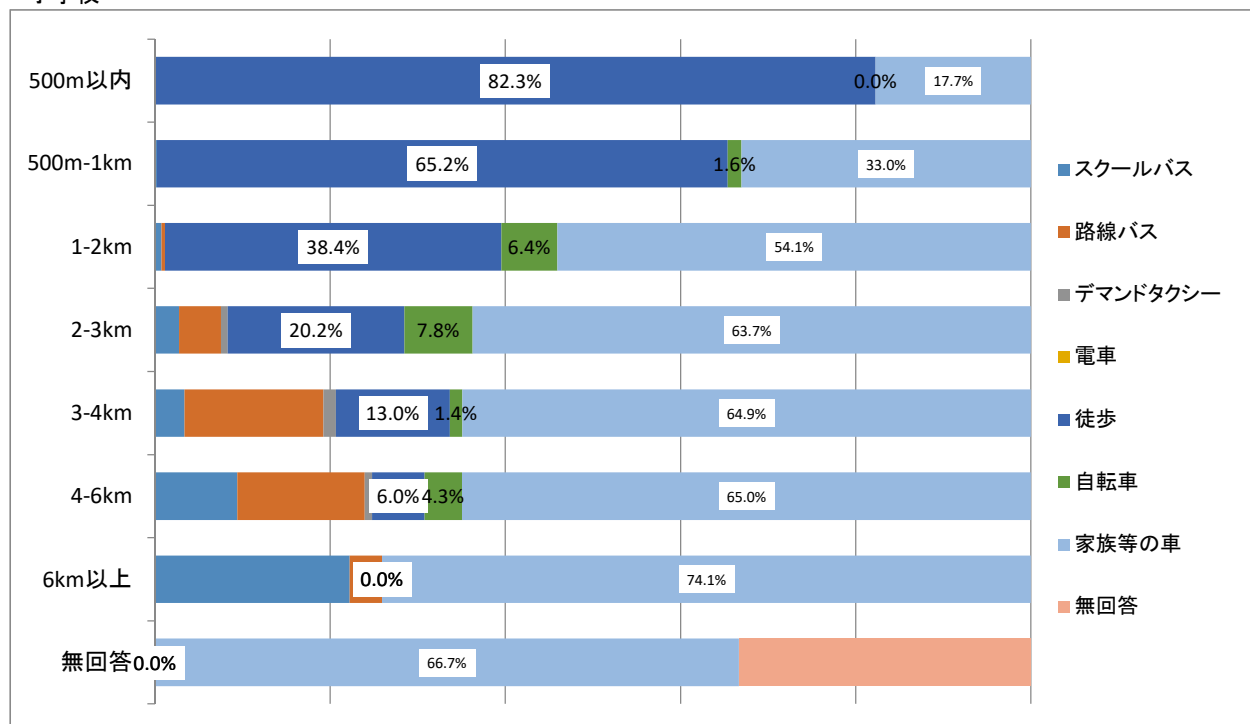
・中学校



中学生の通学時間は小高中の生徒3人を除いて、全員1時間以内。

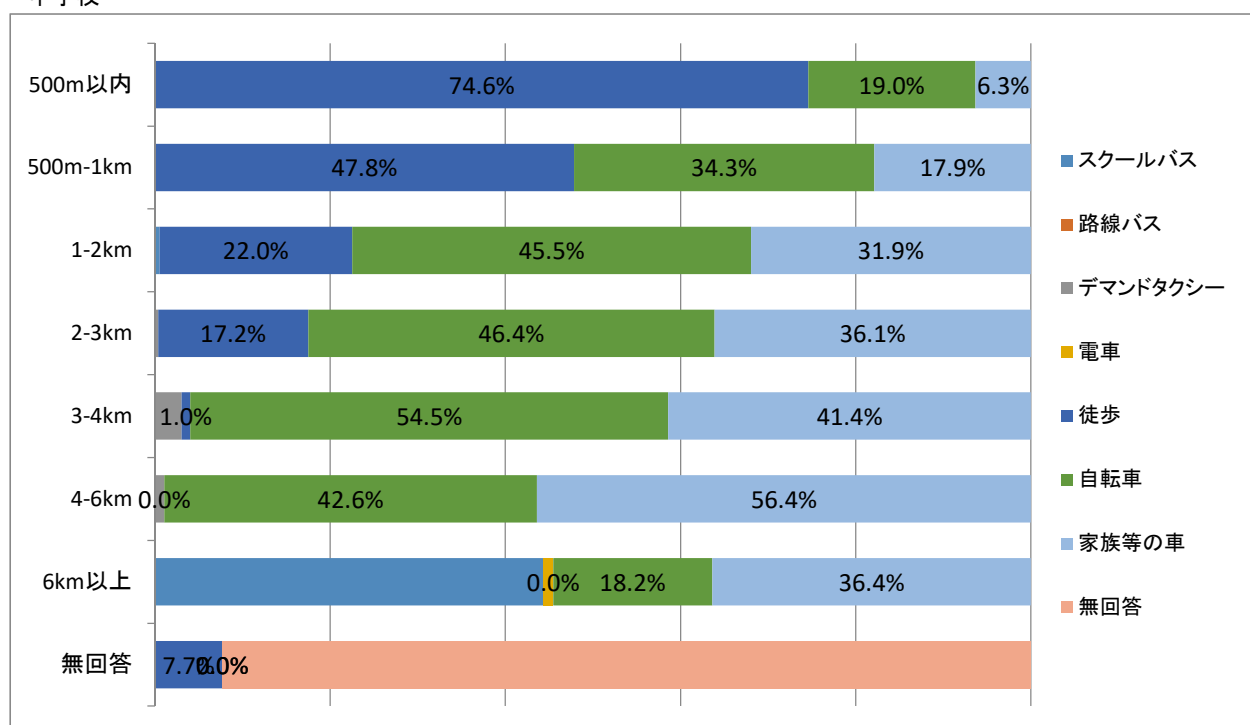
《 クロス集計(通学距離と通学方法) 》

・小学校



通学方法は、通学距離が短いほど「徒歩」が多く、長いほど「家族等の車」が多くなっている。また、通学距離が「1～2km」を超えると「家族等の車」は5割を超えている。

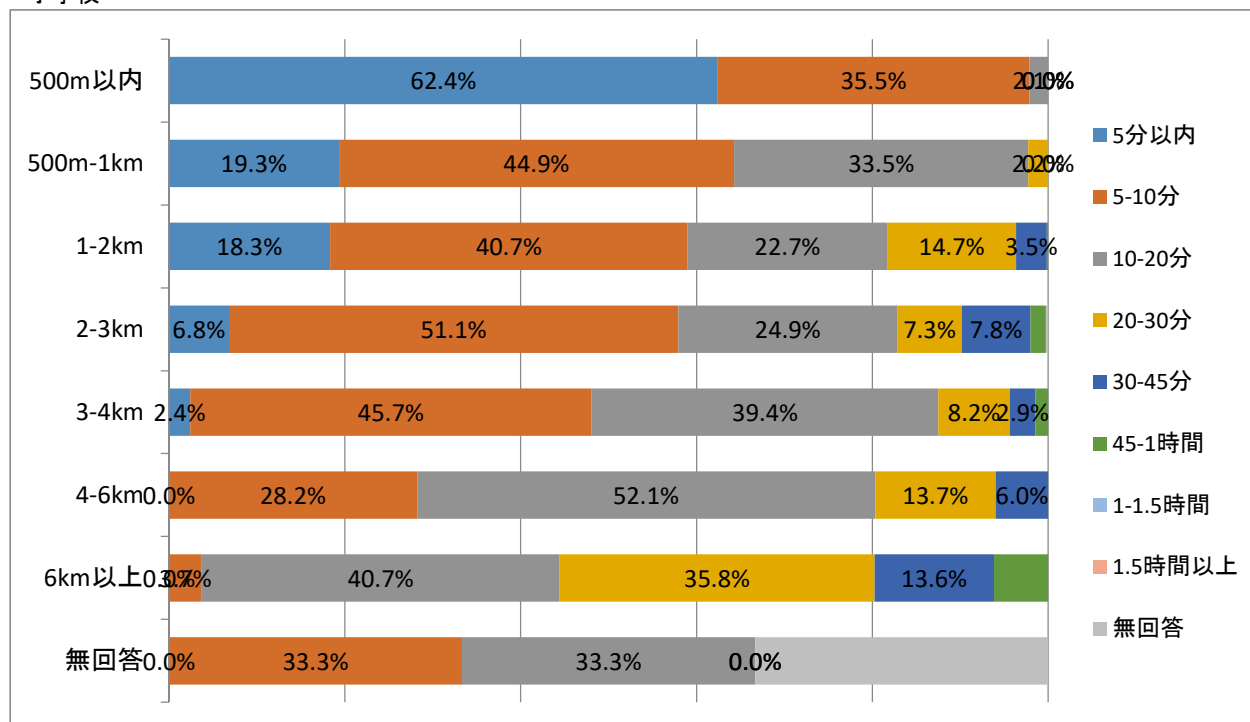
・中学校



通学方法は、通学距離が長くなるにつれて「徒歩」「自転車」「家族等の車」の順で多くなっている。

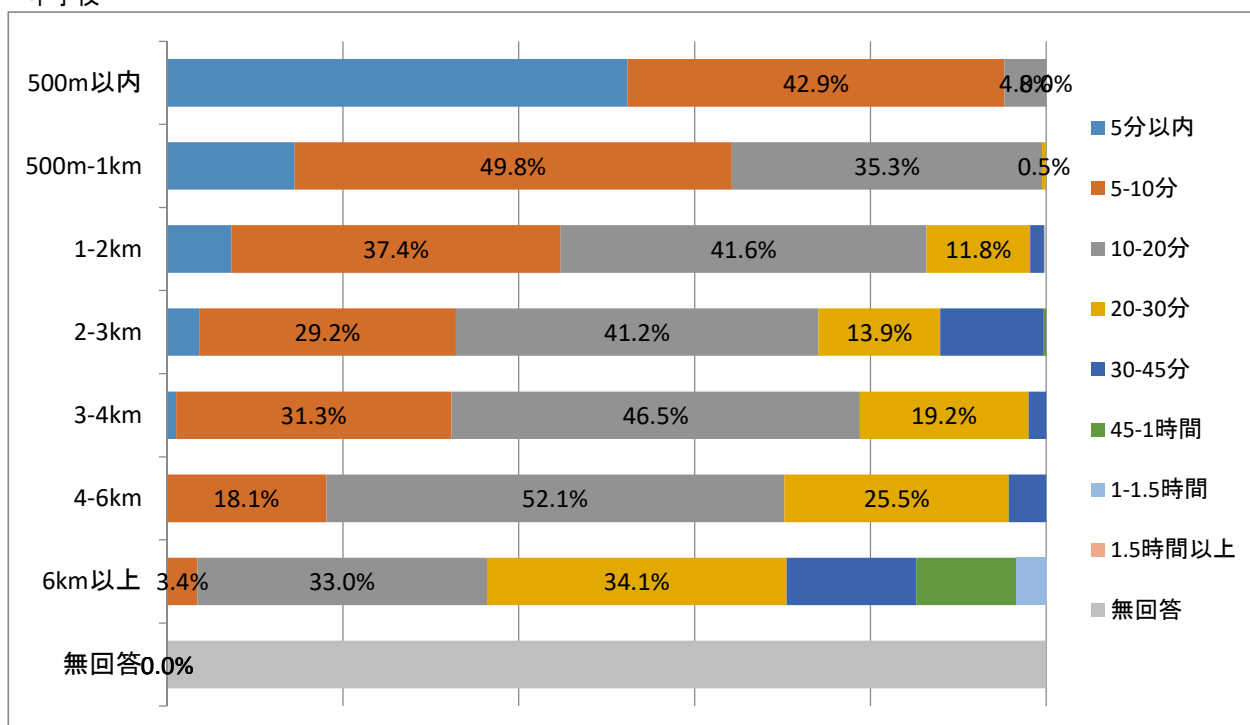
《 クロス集計(通学距離と通学時間) 》

・小学校



通学距離と通学時間は比例し、通学距離が長くなると通学時間も長くなる。

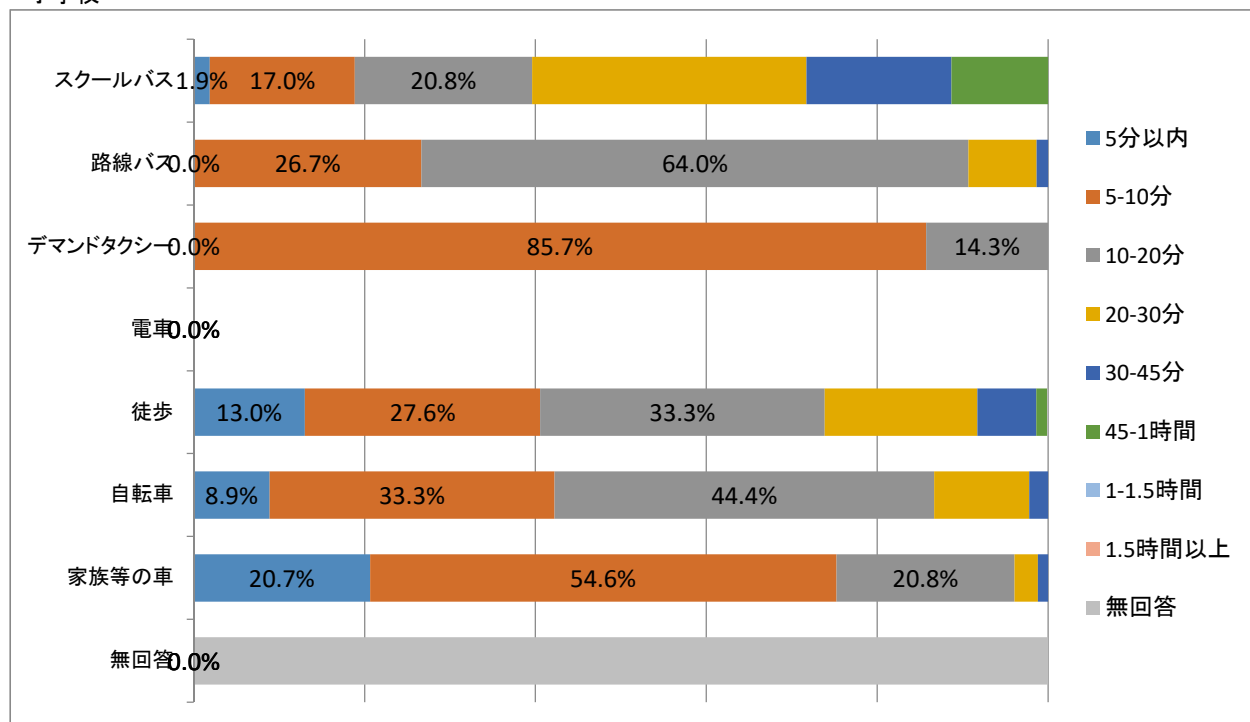
・中学校



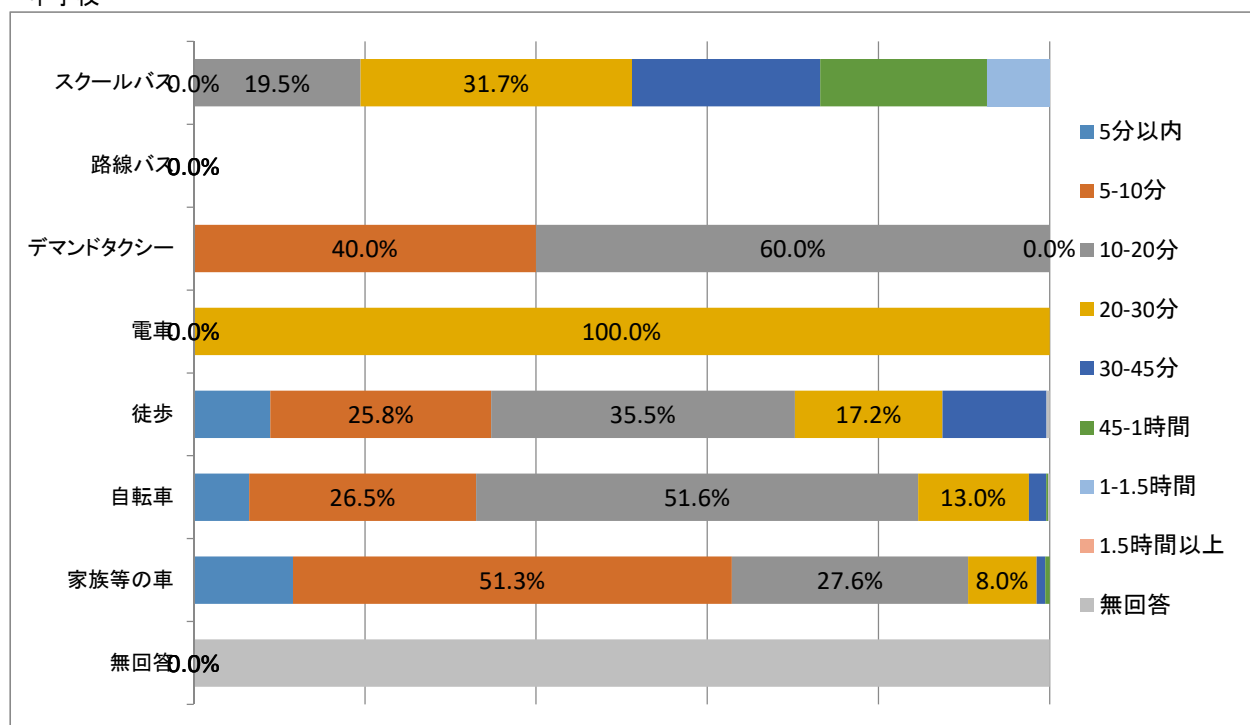
通学距離と通学時間は比例し、通学距離が長くなると通学時間も長くなる。

《 クロス集計(通学方法と通学時間) 》

・小学校



・中学校



市内小学校クラブ活動状況調査（平成29年度）

No.	学 校 名	児童数	学級数	クラブ数	クラブ規模			種 別								
					集団	少人数	個人									
1	原町一小	400	15	9	1	5	3	球技	科学	室内文化	遊びの研究	ミュージック	卓球バドミントン	漫画造形	手芸	パソコン
2	原町二小	168	7	4	2	1	1	運動	ダンス・ミュージック	科学	パソコン					
3	原町三小	330	13	8	1	5	2	レクリエーション	科学	卓球	料理手芸	屋外活動	屋内活動	イラスト読書	パソコン	
4	高 平 小	121	6	4	1	2	1	運動	室内ゲーム	家庭	図工					
5	大 甕 小	123	6	5	1	1	3	スポーツ	科学	パソコン	アート	手作り				
6	太 田 小	43	4	3	1	1	1	運動	ゲーム	ものづくり						
7	石神一小	63	5	3	1	2	0	スポーツ	卓球	手作り昔遊び						
8	石神二小	292	12	8	1	5	2	運動	科学工作	バドミントン・一輪車	手作り	卓球	囲碁・将棋	イラスト	パソコン	
9	鹿 島 小	368	15	8	1	5	2	球技	科学	調理	卓球	バドミントン	ペッパーパー	パソコン	イラスト工作	
10	八 沢 小	78	6	5	1	4	0	ボール運動	バドミントン	手芸工作	科学	音楽				
11	上真野小	110	6	4	1	1	2	運動	家庭	創作	パソコン					
12	小 高4 小	62	13	5	1	1	3	スポーツ	ゲーム	パソコン	イラスト	手作り				

＜考察＞

- ① 小高を除く各学年2学級以上の学校（原1、原3、石2、鹿島）はクラブ活動の種類も多く、児童の希望も叶いやすい。
- ② 運動・スポーツを集団の活動としているが、小さな学校と大きな学校では活動種目に違いがある。
- ③ 小さな学校では少人数や個人を中心とした活動にならざるを得ない。



特別活動の本来の目標は「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」であるのに対し、個人活動でも集団活動に繋げることは可能ではあるが、小さな学校ではそれが叶いにくく、児童の希望も叶えにくいと考える。

市内中学校部活動状況調査（平成29年度）

No.	学 校 名	生徒数	学級数	部活数	運動部															文化部						
					軟式 野球	サッカー	バスケット		バレーボール		ソフトテニス		バドミントン		卓球		柔道		剣道		陸上	水泳	吹奏楽	PC	美術 文芸	文化 総合
							男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
1	原一中	342	11	18	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○			
2	原二中	238	9	11	△	○	○	○		○	○	○	○						○		○	○				
3	原三中	82	3	8	△						○	○	○			○		○	○			○		○		
4	石神中	252	9	14	○	○	○	○	○	○	○			○	○			○	○			○		○		
5	鹿島中	286	10	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		○	○		○		
6	小高中	66	3	6		○	○	○			○	○												○		

＜考察＞

- ① 各学年3学級以上の学校（原1、原2、石神、鹿島）は部活動の種類も多く、生徒の希望も叶いやすい。
- ② 生徒数が多ければ部活動も多くなる傾向にあり、生徒数100人以下の学校では種目が限定される。



生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、小さな学校では部活動の種類に限りがあるので、それが叶いにくいと考える。

市内小中学校 区域外就学状況

基準日 2017/12/15

○小学校

就学指定校等 実際の就学校	区域外 就学合計	＜市内＞就学指定校																＜市外＞就学指定校の所在								備考
		市内計	原一小	原二小	原三小	高平小	大甕小	太田小	石一小	石二小	鹿島小	八沢小	上真野	小高小	福浦小	金房小	鳩原小	市外計	飯館村	浪江町	双葉町	大熊町	富岡町	相馬市	その他	
原町第一小学校	108	96		14	22	11	8	9	4	17	4	1		3	2	1		12	2	7		3				
原町第二小学校	46	38	1		9	2	4	8	2	2				6	2	2		8		5	1		1		1	その他：須賀川市
原町第三小学校	81	58	1	1		1	5	10	4	22	2			5	3	4		23		14	3	5			1	その他：群馬県
高平小学校	22	14	5							2			1	4		2		8		5	1	1	1			
大甕小学校	27	16	2	2	2			2		2		3		3				11		8	2	1				
太田小学校	1	1								1								0								
石神第一小学校	2	1								1								1	1							
石神第二小学校	39	30	5	6	6	1	1		4		2			2		2	1	9	1	2		5	1			
鹿島小学校	46	41			1	2	2		2	5		2	4	11	5	6	1	5	1	1		1		1	1	その他：葛尾村
八沢小学校	7	7						1			4		1		1			0								
上真野小学校	7	7					1				4			1			1	0								
小高小学校	6	6	2		1						2				1			0								
福浦小学校	1	1			1													0								
金房小学校	1	1												1				0								
鳩原小学校	0	0																0								
児童合計	394	317	16	23	42	17	21	30	16	52	18	6	6	36	14	17	3	77	5	42	7	16	3	1	3	

○中学校

就学指定校等 実際の就学校	区域外 就学合計	＜市内＞就学指定校							＜市外＞就学指定校の所在								備考
		市内計	原一中	原二中	原三中	石神中	鹿島中	小高中	市外計	飯館村	浪江町	双葉町	大熊町	富岡町	相馬市	その他	
原町第一中学校	52	41		7	8	19		7	11	1	8		1	1			
原町第二中学校	39	30	10		9	4		7	9		9						
原町第三中学校	10	8	3	3		1		1	2		2						
石神中学校	27	20	7	4	1		4	4	7		3		2	1	1		
鹿島中学校	20	14	1	1		4		8	6	1	3	1		1			
小高中学校	12	10	1	2		3	4		2						1	1	その他：新地町
生徒合計	160	123	22	17	18	31	8	27	37	2	25	1	3	3	2	1	

区域外就学に係る申請理由

○小学校

No	希望小学校 と 区域外申請理由	原一小	原二小	原三小	高平小	大甕小	太田小	石一小	石二小	鹿島小	八沢小	上真野	小高小	福浦小	金房小	鳩原小	計	割合
11	途中の転居	34	9	14	6	5			13	7	1	5	5	1			100	31.5%
12	新築等、住居の転居予定	8	4	7		1		1	8	7	1						37	11.7%
13	転居後、再転居																0	0.0%
21	共働き：児童館利用		1														1	0.3%
22	共働き：祖父母の保護	20	11	15		5	1		2	2	1	1					58	18.3%
23	共働き：店舗、事務所に下校	6	3	3													12	3.8%
24	兄弟が区域外就学中	17	7	9	2	3			3	8	1		1		1		52	16.4%
31	病院等への通院																0	0.0%
32	特別支援学級入級										1						1	0.3%
34	養護施設・福祉施設への入所	2															2	0.6%
35	里親委託																0	0.0%
41	地理的理由：陣ヶ崎二（小）			4													4	1.3%
42	地理的理由：信田沢尼ヶ折（小）																0	0.0%
43	地理的理由：檜原字上萱（小）																0	0.0%
44	地理的理由：陣ヶ崎二（中）																0	0.0%
45	地理的理由：北原細谷地（中）																0	0.0%
46	地理的理由：萱浜六貫山（中）																0	0.0%
47	地理的理由：檜原字上萱（中）																0	0.0%
51	小学校で区域外就学中での中学校入学																0	0.0%
52	その他、生徒指導など	9	3	6	6	2			4	17	2	1					50	15.8%
	計	96	38	58	14	16	1	1	30	41	7	7	6	1	1	0	317	

○中学校

No	希望中学校 と 区域外申請理由	原一中	原二中	原三中	石神中	鹿島中	小高中	計	割合	全体	割合
11	途中の転居	4	4	2	10	3	5	28	22.8%	128	29.1%
12	新築等、住居の転居予定	3			1	1		5	4.1%	42	9.5%
13	転居後、再転居							0	0.0%	0	0.0%
21	共働き：児童館利用							0	0.0%	1	0.2%
22	共働き：祖父母の保護							0	0.0%	58	13.2%
23	共働き：店舗、事務所に下校							0	0.0%	12	2.7%
24	兄弟が区域外就学中	6	3		2			11	8.9%	63	14.3%
31	病院等への通院							0	0.0%	0	0.0%
32	特別支援学級入級			1				1	0.8%	2	0.5%
34	養護施設・福祉施設への入所							0	0.0%	2	0.5%
35	里親委託							0	0.0%	0	0.0%
41	地理的理由：陣ヶ崎二（小）							0	0.0%	4	0.9%
42	地理的理由：信田沢尼ヶ折（小）							0	0.0%	0	0.0%
43	地理的理由：檜原字上萱（小）							0	0.0%	0	0.0%
44	地理的理由：陣ヶ崎二（中）	1						1	0.8%	1	0.2%
45	地理的理由：北原細谷地（中）			1				1	0.8%	1	0.2%
46	地理的理由：萱浜六貫山（中）							0	0.0%	0	0.0%
47	地理的理由：檜原字上萱（中）							0	0.0%	0	0.0%
51	小学校で区域外就学中での中学校入学	21	10	4	3	3		41	33.3%	41	9.3%
52	その他、生徒指導など	6	13	0	4	7	5	35	28.5%	85	19.3%
	計	41	30	8	20	14	10	123		440	

南相馬市公立学校適正化計画(中間報告)ー望ましい適正化基準についてー【概要版】

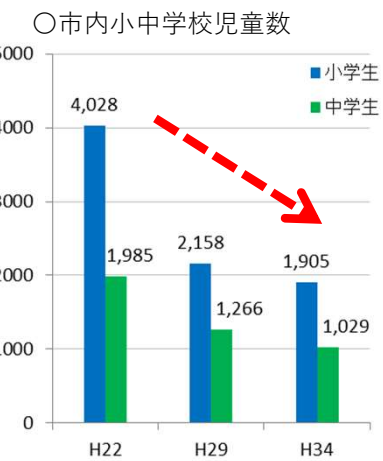
H30.7.10 小高区地域協議会説明資料(教育総務課)
平成30年5月 南相馬市教育委員会

1 はじめに

2 学校規模の現状

3 これまでの検討経過

市教育委員会では、平成28年度から小中学校の適正化(適正規模・適正配置)の検討を始め、学識経験者、PTA、地区の代表等で組織する「南相馬市公立学校適正化検討委員会」(以下、「検討委員会」という。)を設置し、児童生徒数の推移等の現状を共有し、学校適正化に関するアンケート調査結果及び検討委員会での意見を踏まえ「南相馬市公立学校適正化計画(中間報告)」をとりまとめ、市内小中学校の望ましい適正化基準(1学級あたりの児童生徒数・1学年あたりの学級数)を定めました。



年度	H22	H29	増減数 H29-H22	増減率 %
学校名				
原一小	598	400	▲198	▲33.1
原二小	331	168	▲163	▲49.2
原三小	538	330	▲208	▲38.7
高平小	193	121	▲72	▲37.3
大妻小	204	123	▲81	▲39.7
太田小	133	43	▲90	▲67.7
石一小	187	63	▲124	▲66.3
石二小	486	292	▲194	▲39.9
鹿島小	317	368	▲51	16.1
真野小	75	75	▲75	▲100.0
八沢小	120	78	▲42	▲35.0
上真野	141	110	▲31	▲22.0
小高小	392	47	▲345	▲88.0
福浦小	105	8	▲97	▲92.4
金房小	143	4	▲139	▲97.2
鳩原小	65	3	▲62	▲95.4
計	4,028	2,158	▲1,870	▲46.4

年度	H22	H29	増減数 H29-H22	増減率 %
学校名				
原一中	506	342	▲164	▲32.4
原二中	318	238	▲80	▲25.2
原三中	163	82	▲81	▲49.7
石神中	319	252	▲67	▲21.0
鹿島中	297	286	▲11	▲3.7
小高中	382	66	▲316	▲82.7
計	1,985	1,266	▲719	▲36.2

- 計9回の検討委員会での協議
○適正化アンケート調査
○通学状況調査
○小学校クラブ
○中学校部活動調査
○区域外就学状況調査

5 学級規模(1学級あたり児童生徒数)の検討

6 学校規模(1学年あたり学級数)の検討

◆望まれている1学級の児童生徒数

学校別	小学校	中学校
対象別		
保護者・一般市民	21~30人	21~30人
教職員	21~25人	21~25人

- ◆学級人数を決めるのに重要なこと(上位回答)
- ・学習指導がきめ細かい
 - ・子どもに向き合う時間大
 - ・コミュニケーション能力が身に付く

- ◆学校規模を決めるのに重要なこと(上位回答)
- ・一人ひとりが活躍できる機会が多い
 - ・学級同士が切磋琢磨できる環境が多い
 - ・学習指導等がきめ細かくできること
 - ・人間関係が固定化されないこと
 - ・クラブ活動の充実
- アンケート調査結果より

- ◆調査結果を踏まえた児童生徒の教育環境視点による学級人数の検討
- 教育環境視点1-1 「教員が児童生徒に目が行き届き、きめ細かい教育ができる環境」
⇒小学校21~25人・中学校21~30人
- 教育環境視点1-2 「主体的に学び合う活動と集団学習ができる環境」
⇒小学校21~25人・中学校26~30人
- 教育環境視点1-3 「学級内でコミュニケーション能力の育成及び切磋琢磨できる環境」
⇒小学校21~25人・中学校26~30人

- ◆調査結果を踏まえた児童生徒の教育環境視点による学級数の検討
- 教育環境視点2-1 「学校行事等で児童生徒が一人ひとり活躍できる環境」
⇒小学校1~3学級・中学校2~4学級
- 教育環境視点2-2 「多様なものの見方や考え方をもつ児童生徒が出会える環境」
⇒小学校2学級以上・中学校2学級以上
- 教育環境視点2-3 「クラブ活動や部活動、学校行事等において多様な選択ができる環境」
⇒小学校2~3学級・中学校2~4学級

7 望ましい適正化基準

8 今後の進め方

		人数	<小学校>望ましい学級人数											
			19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
視点														
教育環境視点	1-1													
教育環境視点	1-2													
教育環境視点	1-3													
適正化基準														

		人数	<中学校>望ましい学級人数											
			19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
視点														
教育環境視点	1-1													
教育環境視点	1-2													
教育環境視点	1-3													
適正化基準														

学級数	<小学校>望ましい学級数					
視点	1	2	3	4	5	6
教育環境視点 2-1	←	←	←	←	←	←
教育環境視点 2-2						←
教育環境視点 2-3		←	←	←	←	←
適正化基準		←	←	←	←	←

学級数	<中学校>望ましい学級数					
視点	1	2	3	4	5	6
教育環境視点 2-1	←	←	←	←	←	←
教育環境視点 2-2						←
教育環境視点 2-3		←	←	←	←	←
適正化基準		←	←	←	←	←

- 小学校**
望ましい適正化基準
○1学級の児童数 21~25人
○1学年の学級数 2~3学級
- 中学校**
望ましい適正化基準
○1学級の児童数 26~30人
○1学年の学級数 2~4学級

- 南相馬市公立学校適正化計画(中間報告)
平成30年8月策定(予定)
南相馬市公立学校適正化計画
平成30年10月以降(予定)
○○地区懇談会
対象地区の合意形成
平成31年4月以降(予定)
○○地区再編計画
- ◎今後、皆様のご意見等を踏まえつつ、PC実施及び地域協議会への報告も必要に応じ取組むなど、丁寧に進めて参ります。